

FFG調査月報

MONTHLY REPORT

8/9

2022.AUG・SEP
VOL.148

Top Interview

株式会社 ヒサノ 代表取締役社長 久保 誠 氏

株式会社 出田産業 代表取締役会長 出田 浩一 氏 ・ 代表取締役社長 出田 広大 氏

株式会社 丸政水産 代表取締役社長 坂田 政浩 氏

 福岡銀行

 熊本銀行

 十八親和銀行



懐かしい
情景を
探して

Looking for a nostalgic scene

タイムトラベル島原



▲島原武家屋敷跡



▲上.島原城
下.名物の甘味「かんざらし」



●島原武家屋敷跡

住所：
長崎県島原市
下の丁



島原城築城のころ（1624年）、島原の武家屋敷は藩士の身分ごとに縄張りされ、南北を通る街路の中央には水路が走った。城下の豊富な湧水は雲仙岳の伏流水で、川奉行の見回りも行われるほど生活用水として大切にされていた。

梅や柿、柑橘類など、藩命による自給用の果樹栽培が盛んなエコタウンでもあった鉄砲組の屋敷跡は、現在「町並み保存地区（※）」に指定されている。

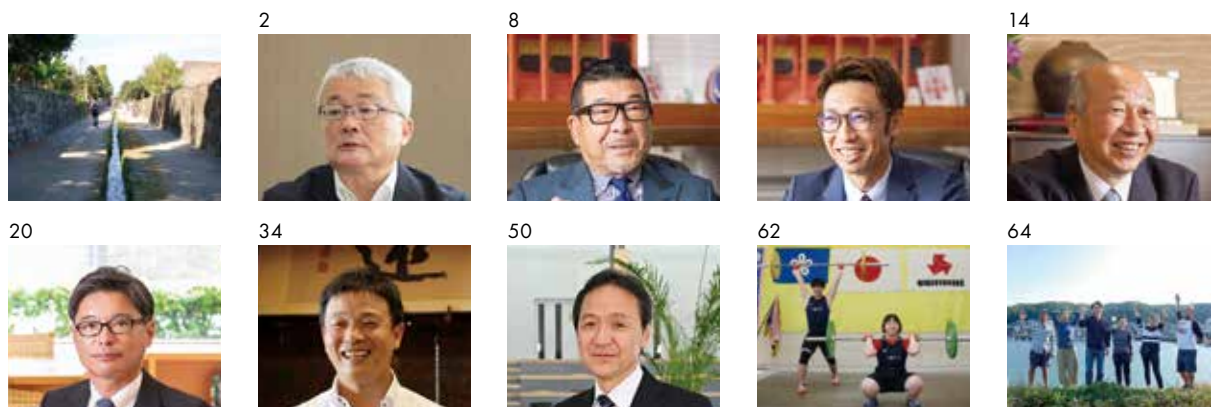
穏やかな島原湾や、背後に雲仙の山々が控える風光明媚な土地柄である。往時は文武に励む子どもたち、近海の豊富な魚介類を扱う行商人らが行き交い賑わっていたのだろう。

築城から約400年。今も町並みは残り、水路には勢いよく湧水が流れ続けている。

※武家屋敷町並み保存地区：鉄砲組と呼ばれていた徒歩部隊の屋敷跡で、約90坪の敷地に25坪程の屋敷が連なっていた。

（文・阿井川 圭）

CONTENTS



懐かしい情景を探して タイムトラベル島原

Top Interview

- 2  福岡銀行
株式会社 ヒサノ 代表取締役社長
久保 誠氏
- 8  熊本銀行
株式会社 出田産業
代表取締役会長 代表取締役社長
出田 浩一氏 ・ 出田 広大氏
- 14  十八親和銀行
株式会社 丸政水産 代表取締役社長
坂田 政浩氏
- 20 さすてなぶる九州
株式会社 谷川建設 代表取締役 谷川 喜一氏
- 30 FFG BMS
蔵田工業 株式会社 / 株式会社 表現社
株式会社 雄苑
- 32 START UP Company バツクリ 株式会社

34 地域と共生するFFG
屋台村プロジェクト
株式会社 中央計装 代表取締役 岡田 健二氏

40 FFG Succession始動

50 地域と共生するFFG
産学官“交わり”の共創拠点へ
GYMLABO
国立大学法人 九州工業大学 学長 三谷 康範氏

56 地域とつながるFFG連携プロジェクト
九州工業大学と福岡銀行による
産学連携での取り組み

58 ニューヨーク駐在員報告
激動するニューヨークの不動産市況

61 釣り道 有明海の伝説・ヒラ編

62 九州の星 全国高校ウエイトリフティング競技選抜大会
男女W日本一 福岡県立八幡中央高等学校
山本 彩弥氏 ・ 安藤 周粋氏

64 長崎だより 壱岐島でたちまちやっています!

バックナンバー
のお知らせ

「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。



今月の表紙 不知火美術館・図書館(熊本県宇城市)

表紙の写真は、2022年4月にリニューアルオープンした不知火美術館・図書館です。不知火海が作り出す蜃気楼現象「不知火」をイメージして設計されました。壁面と天井に設置されたルーバースクリーンの外観は95mの長さがあり、有機的な連続性が美しい建物です。館内にはカフェが併設され、コーヒーを飲みながら本を読むことができ、敷地内には子ども向けの絵本1.1万冊を所蔵する「こども絵本のいえ」が新設されています。



 福岡銀行

精密機器の保管・輸送から設置まで、
サプライチェーンを最適化・強化。
災害対策拠点の構築にも挑む。

株式会社ヒサノ

代表取締役社長

くまもと
久保誠氏

取引店／福岡銀行熊本営業部
十八親和銀行熊本支店

■会社概要

創業:1935年／設立:1968年／所在地:熊本市南区／資本金:1,000万円／従業員:84名(2022年2月1日現在)／事業内容:半導体製造装置(大型精密機器)輸送、理化学・医療機器・金融システム機器輸送、病院・店舗・事務所移転、営業倉庫、ピアノ・楽器輸送・調律、総合建設業／事業拠点:(本社)熊本市南区(営業所)熊本県菊池郡菊陽町、福岡県古賀市／関連会社:ヒサノータルサービス株式会社

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





2022年6月に稼動を開始した「古賀倉庫」前(左から久保社長、五島頭取)

鉄道小荷物荷扱所として創業 ピアノ運送事業で急成長

半導体製造装置(大型精密機器)、理化学・医療機器・金融システム機器の輸送から設置、ピアノ等楽器の輸送から調律までを得意とする当社の原点は、戦前の鉄道小荷物の取扱所でした。先々代の当社社長・久野武雄ひさのたけおが1935年に熊本市内で荷扱所を設けて操業を開始しました。その後、事業転換を図りつつピアノの輸送で大きな成長を遂げ、1968年には有限会社久野運送の設立に至りました。

1970年代に入ると、一般小型貨物輸送事業免許を取得し、全日本ピアノ運送連合に加盟。熊本市南高江への本社移転、全国引越専門協同組合に加盟して同組合の「熊本西センター」となるなど、順調に社業を発展させていきました。

1980年代には「ピアノトータルサービス株式会社」を設立して、ピアノレンタルから修理、調律、買取、販売までを手がけると同時に、システムバス・キッチンの据付も行うようになりました。

時代が平成へと変わって間もない1991年、社名を現在の「株式会社ヒサノ」に変更すると

同じくして福岡営業所を立ち上げました。1997年には本社新社屋を設けました。

現在、当社では半導体製造装置を始めとする精密機器、ピアノやコピー機などの中重量物の輸送から搬入・設置、引越や事務所移転などが事業の主な柱となっています。

また2022年6月には、過去熊本地震で被災した経験を踏まえ、災害時の対応強化を目的に福岡県大野城市の福岡営業所を福岡県古賀市に移転するとともに、精密機器に特化した倉庫を建設。倉庫業の許認可を取得して営業用倉庫の運営を開始したところです。

県庁と外務省での幅広い経験を 活かして経営再建に踏み出す

自身の当社への入社は2004年です。1991年に熊本大学大学院を卒業後、熊本県庁に入庁しました。

入庁当初は土木部河川課などに勤務し、4年後に外務省へ出向。外務省では欧亜局大洋州課の所属に。ここ数年、新型コロナウイルス感染症対策分科会長として広く皆さんの知るところとなった尾身茂氏が1998年に世界保健機関(WHO)の西太平洋地域事務局長選挙に



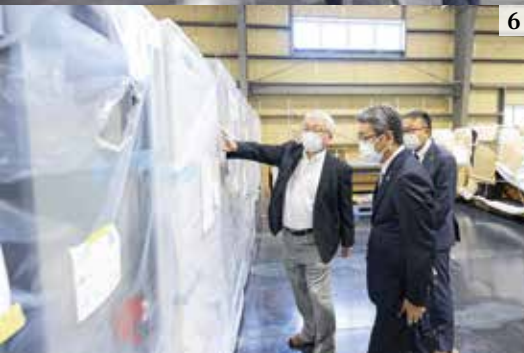
3 1



4 2



5



6





久保社長

立候補した際には、太平洋島嶼国の票集めに奔走するといった経験をしました。

その後、在シカゴ日本国総領事館にも勤務し、皇族や閣僚、国会議員のシカゴ来訪のスケジュール調整などに従事し、実に忙しい日々を送りました。

外務省時代の経験でもっとも思い出深いのは、1997年に『西サモア』を『サモア』に国名変更を担当したことです。外務省職員のなかでも国名変更に関わる経験をする者はそう多くはないため、当業界、あるいは一般企業の経営者のなかで、世界地図の表記を変えるような経験をした人は、まずいないのではないのでしょうか。

さて、シカゴから帰国した際に知り合つて結婚

した妻・尚子^{なほこ}は、当社の先代社長の久野賢治^{ひくのけんじ}の娘で、つまり先代は私の義父にあたります。当時、義父は病で体調を崩しており、妻が専務として会社の舵取りを任されていました。ちょうど物流業界がIT不況のあおりで売上が低迷していた時期でもあり、妻とともに経営再建に取り組むために県庁を退職することを決意したのです。

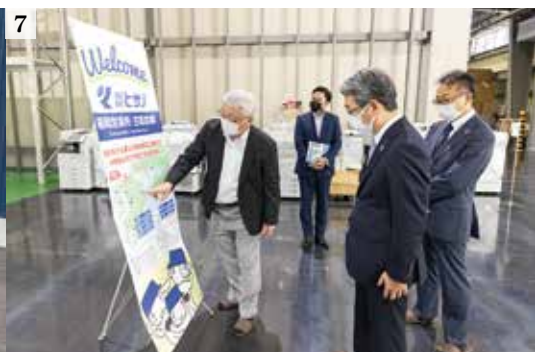
中小企業の範となる 積極的なDX推進態勢

もちろんまったくの未経験で飛び込んだ物流業界でしたので、まず民間の後継者育成研修などを受講して、経営ノウハウや運送業の知識を学びました。それから、会社を建て直すために、社内ガバナンスの強化を中心に社内体制の刷新に注力。また、機械器具設置業への進出、引越・施工部門の強化にも取り組み、2008年に社長に就任しました。

当業界での経験がないまま後継者になったわけですから、当初は古参の社員から認めてもらえない状況でしたが、会社の業績が上がるにつれ、社員の信頼も得られるようになっていきました。



11 9



7



10



8

1.対談風景/2.社内DX(配車業務)の説明/3.古賀倉庫の全景/4.柱がなく鉄板が敷き詰められた倉庫/5.6.7.ピアノや医療機器など重量のある精密機器の輸送・保管・搬入・設置を得意とする/8.電動リフトも新調/9.地下水を汲み上げ、きれいな水に変える装置/10.災害時対応自動販売機/11.企業メッセージ



前列左2人目から久保社長、五島頭取、東熊本営業部長(福岡銀行)

経営再建の局面が一段落して、ここ数年でようやく、企業として次なるステップアップを図る段階へさしかかったと考えています。具体的には、二つの取り組みを挙げています。一つは、2019年に開始した社内DX(デジタルトランスフォーメーション)化。従来は紙による情報共有を進めていた配車業務をシステム化することで、人と車の手配が自動で行われ、配車結果や受注情報をデータで共有する仕組みに転換。また、クラウド上でデータを保存することで、本社と福岡営業所と出先、つまり現場や他拠点との情報共有を迅速化。紙での情報共有では多かった問い合わせ対応を減らす結果につながりました。

受発注・配車システムや給与計算システムなど、DXを推進するための自社開発は、ITコーディネーターやベンダーとの協力関係で進めたもので、2021年11月に経済産業省DX認定における熊本県内初の認定事業者となりました。さらには、DX推進態勢を構築した経営者として、NPO法人「ITコーディネーター協会」から最優秀賞となる「経済産業省商務情報政策局長賞」の表彰を受ける展開に。2022年版の中小企業白書にも、当社の取り組みが模範事例として紹介されました。

大規模な倉庫プロジェクトで 一貫物流サービスを実現

そして、新戦略のもう一つが、先に述べた「古賀倉庫」です。2022年6月に稼働を開始したこの倉庫は、総事業費約10億円を投じた鉄骨平屋建ての倉庫兼事務所で、当社が取得した3,908坪の敷地に最大3棟の倉庫を建設する大規模プロジェクトの第1期となるものです。

精密機器に特化した倉庫の建設、倉庫業の許認可を取得しての営業用倉庫の運営には、大きく三つの目的があります。第一が、精密機械の保管・輸送から設置までのサプライチェーンの最適化と強靱化。第二が、ドライバーの人手不足の課題解消、物流の効率化、環境対策を目的とした共同配送。そして第三が、災害時に早期に業務を再開するための災害対策拠点の構築です。災害対策拠点という意味では、災害時に地域住民が一時避難して宿泊し滞在できる機能も備えています。

この拠点の稼働によって、従来の輸送・搬入・設置までのワンストップサービスに加え、組立等の荷役や保管業務も含めた一貫物流サービスの提供が可能になりました。

「神は自ら助くる者を助く」 の言葉を胸に刻んで前へ

一時の危機的状況を脱して経営が軌道に乗ったとはいえ、私が社長に就任した直後のリーマン・ショック、東日本大震災や熊本地震、そしてコロナ禍と同様に、予期せぬ逆境がいつまたやってくるかはわかりません。先の見えない状況においても事業継続と発展を続けていくには、常に事業機会を追求する、革新的で能動的な経営者の行動が不可欠といわれています。さらにいえば、試行錯誤を伴う戦略・市場変更、つまり、攻めの事業転換を遂行する資質が経営者に問われる時代になったのかもしれませんが。

経営者としての私の原動力となっている「神は自ら助くる者を助く」という言葉。人に頼らず自立して努力を続ける者には神の助けがある。自らを変革していく努力が、今後を切り拓いてくれるものと信じ、英語のブラッシュアップとMBA(経営学修士)取得を目標にしながら勉強に励んでいます。わが国の基幹産業である半導体、人々の命と健康を守る理化学・医療機器、ライフラインとして重要な金融機関ATMなど、社会を支える産業用機械に関わる社業を社会的使命と捉え、これからも積極的に事業を展開してまいります。

■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 五島 久

当社は、戦前の鉄道小荷物取扱所から、戦後にピアノの運送事業で地域有数の企業へと躍進された後、時代のニーズを捉えて社業を拡大されました。現社長が経営を引き継がれて以降は、ご経歴において身に付けられた多角的視点を活かし、事業の立て直しと利益率向上に力を注いでこられました。

近年は、経済産業省DX認定で熊本県内初の認定事業者となられ、またこの度、一貫物流サービスを目指した古賀倉庫を稼働されました。今後も半導体生産拠点として注目が集まる熊本で、更なる飛躍を遂げられることを期待しています。





熊本銀行

九州最大級の設備を導入して
高品質なステンレス配管加工を実現。
確かな技術でグローバル企業へ。

株式会社 出田産業

い
で
た
さん
ぎ
ょう

代表取締役会長
出田 浩一 氏

い
で
た
こう
いち

代表取締役社長
出田 広太 氏

い
で
た
こう
だい

取引店／熊本銀行 益城支店

■会社概要

設立:1984年／所在地:熊本市東区／資本金:
1,250万円／従業員:51名(2022年8月現在)／
事業内容:管工事、機械器具設置工事、電気
工事、ヘッダー・タンク製作、架台製作、ステンレス
加工、酸洗設備／事業拠点:本社、福岡営業所、
香椎事務所、沖縄営業所

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





2020年に稼働を開始した新工場前(左から出田広夫社長、出田浩一会長、野村頭取)

産声を上げた熊本から 福岡や沖縄へ進出

当社の歩みは、1984年に現会長である私
が、勤めていた鉄工所から独立して「有限会社
出田産業」を立ち上げたところから始まりま
した。受注した配管工事を手がけるなかで、配
管に対する加工設備の必要性を実感。取引先
や地元の方との縁で土地を取得し、1993
年、熊本市東区戸島町に工場を建設すると同
時に工場の敷地内へ会社を移転させました。
この移転を契機に当社の事業は周囲の環境
と多くの縁に恵まれ躍進していくことになり
ます。

2006年には株式会社へと組織変更。
2015年に香椎事務所、翌2016年に福岡
営業所、2018年に沖縄営業所を開設し、地
場の企業様との信頼を構築してきました。

主力事業で社会インフラを支え 産業界や人々の安全にも貢献

当社の発展を支えてきた主幹事業は管工事
です。当社が手がける管工事のおもなものは
「空調配管」「プラント配管」「消火配管」の三
種類があります。

空調配管には、業務用空調機器に代表され
る空調設備に使われる冷水配管と温水配管、
またその両方の機能をもつ冷温水配管、そして
蒸気配管といった種類があります。当社では、
商業施設、ホテル、工場、ビルなどの大型施設
の空調配管加工と施工において実績を積んで
おり、あらゆる生活者、ビジネスパーソンの快
適な暮らしや仕事を支える活動を展開してい
ます。

プラント配管は、半導体工場や薬品工場、食
品工場などで使用される配管であり、パイプの
中を流れる物によって適した素材が異なるとい
う特徴があります。さまざまな生産現場のニ
ーズにお応えする事業を通じて、多岐にわたる分
野の産業界に幅広く貢献しています。

消火配管は、消火設備に用いられる配管で、
万が一の火災に備えるために耐食性や耐震性
に優れているのが特徴。消火設備の一部を担う
ことで、私たちは多くの人々の安全と財産を守
る活動にも従事しています。

設計から施工までの工程を 自社でまかなう強みを活かして

当社のこれまでの実績という点では、いわゆ
るサブコン、つまりゼネコンの下請けとして設備



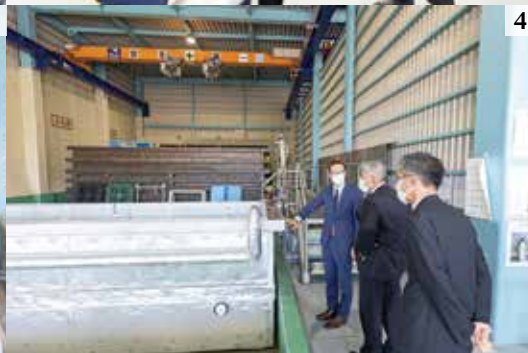
5



3 1



6



4 2





出田浩一会長

工事を請け負う企業のパートナーとして、大型施設や公共性の高い施設の工事を長年にわたる手がけて、建設業界における多くの取引先から厚い信頼を獲得してきました。

同様の工事を請け負う企業が数多あるなかで、当社が優位性を発揮して取引先から信頼を寄せられるのは、当社が施工会社であるだけでなく、設計と製作においても自社のワンストップサービスで提供できる加工メーカーという一面もあるからです。

一連の工程すべてに関する豊富なノウハウを有しているため、現場ごとに生じる、ありとあらゆるニーズに対して、柔軟かつ迅速に対応でき、安全で質の高い製品とサービスを提供できるのが、私たちの強みといえるでしょう。

最新鋭の酸洗設備を有する ステンレス配管加工場

ここからは現社長の私・広大ひろびろが説明します。

2020年、本社北隣の農地跡を開発し、ステンレス配管加工を行う新工場が竣工。新工場完成を機に、それまで事業運営の陣頭指揮を執っていた父・浩一こういちは会長に、各営業拠点の開設に奔走していた私が新社長に就任し、さらなる事業拡大に向けた新たな経営体制が開始しました。

平屋建ての新工場の床面積は1,542平米で、加工場はそれまでの4倍の広さとなり、生産能力は3倍に拡大しました。そして、この加工場の大きな特色が、ステンレス配管の需要増加に対応するための、九州最大級の大型ステンレス用酸洗設備を導入したことです。

ステンレス配管は酸洗いすることで、さびや加工時の溶接焼けを洗い流し、耐久性の高い製品に仕上げられます。酸洗設備は大きいプールのような酸洗槽にステンレス配管を浸して酸洗する仕組みになっていますが、これは、手作業では洗いにくいような複雑な形の管や細い管の内側にもしっかりと酸を通すためです。

九州では数少ない新酸洗設備の導入は、新たな需要の開拓につながり、当社の仕事の幅を広げるきっかけとなります。さらには、当社の



ステンレス配管で
環境負荷を軽減しながら
地域社会の
インフラを支えます!



1.対談風景／2.3.4.5.6.7.工場見学の様子／
8.9.九州最大級の酸洗設備／10.ステンレスを
使用して作られた神社／11.企業メッセージ



新工場にて。最前列左3人目から横手常務取締役、出田広大社長、出田浩一会長、野村頭取、井島支店長(熊本銀行)

独自性を強化するステンレスの品質保証における大きな武器にもなると考えています。

環境負荷軽減につながる ステンレス配管の啓蒙普及に注力

酸洗設備は、ステンレス配管の需要増を見込んでの導入ですが、建設設備業界の現状をいいますと、素材はステンレスよりも鉄(専門的には炭素鋼鋼管)が主流を占めています。

ステンレス配管は、耐食性が高い性質は知られているものの、鉄製にくらべてコストが高いイメージが定着しており、給水配管などの限定的用途での使用に限られる傾向があります。

しかしながら、ステンレス配管の有用性は耐食性に限らず、鉄製と比較して軽量で加工しやすいうえ、溶接時に発生する化学物質によってもたらされる作業者の健康リスクを軽減できる面があります。さらに、ステンレス配管は、製造過程や加工時に発生するCO₂量を削減できる、材料のリサイクルやリユースがしやすい、といった環境負荷の軽減につながるメリットもあるのです。

素材コストの高さは、製作および施工技術の工夫で工賃を抑える努力によってカバーできると、私たちは考えています。そのために、ステンレス酸洗時の品質や作業効率を高めるべく、



出田広大社長

地元の熊本大学に材料工学の観点から知見を求め、産学連携を進めています。

また、ステンレス配管普及に向けては、施工会社の中で先進性を高めるために、ステンレス協会会員企業として各方面からの意見収集に取り組んでおり、必要に応じて実証実験も行っていくつもりです。

外国人技能実習生の受け入れで 養われるグローバルな視点

当社に関するトピックをもう一つ。2018年からベトナム、中国などから外国人技能実習生の受け入れをスタートさせています。

当社の場合、経験豊かな現場職長を中核とした現場施工チームが九州一円で活躍する

ことで「出田産業の技術力」を広く知らしめる成果をもたらしてくれています。その一方で、技能の習得に励む外国人技能実習生もまた、日本人従業員とともに当社の大切な戦力となつていきます。技術と文化の交流を通じて視野の広い事業展開を目指すなかで、企業としてグローバルに貢献していくための素地を養っていきたいと考えています。

5年で事業の全国展開、 10年で世界進出を目指す

2020年の新工場竣工とともに、私たちは次なるステージへの一步を踏み出しました。これまで以上に高精度で高付加価値を求められる仕事に果敢に挑戦しながら、圧倒的な差別化を図れるだけの企業価値向上に全力を尽くしていく所存です。

具体的な目標として、まずは業種別売上高において県内トップ5を目指します。作業精度や効率を高め、環境負荷を抑える試みにも取り組むつつ高次元の品質とサービスを提供し、配管加工メーカーとして九州トップレベルの地位確立へ。そして段階的に、5年で事業の全国展開、10年で海外への進出を達成できるよう事業を推進していきます。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 野村 俊巳



会社設立以来、地域社会の生活と産業を支えるインフラ事業者として、管工事や機械器具設置工事などを中心に、確かな品質を提供され信頼と実績を重ねてこられました。

一昨年に完成した、高品質ステンレス配管の加工ラインとなる新工場は、従来の工場のイメージを刷新するようなモダンな外観が目を引きまます。九州最大級の酸洗設備、環境に配慮した最新鋭の排水処理施設などを備えて、品質にすぐれ環境にもやさしい製品作りに取り組まれています。積み重ねた実績と独自技術をもとに、今後のさらなる飛躍を期待しています。



トップに聞く!

JS 十八親和銀行

「海からの健康」を島原から全国へ。
味にこだわり、品質第一を守り続ける。

株式会社
丸政水産

まる
まさ
すい
さん

代表取締役社長
坂田 政浩氏

さか
た
まさ
ひろ

取引店 / 十八親和銀行 島原支店

■会社概要

創業:1950年 / 設立:1976年 / 所在地:長崎県島原市 / 資本金:9,500万円 / 従業員:163名 (2022年6月現在) / 事業内容:鮮魚介類の販売、水産物の加工販売、海苔加工販売、冷凍冷蔵倉庫業(保税)他 / 事業所:本社、有明(冷凍)工場、海苔工場、珍味工場、鮮魚部、贈答品センター有明店、長崎支社・長崎工場、福岡営業所

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





本社前(左から坂田社長、山川頭取)

先代の先進的な発想と仁義の心で 安定供給と安定雇用を実現

当社の先代である父・坂田政男まさおが、1950年に水産加工・販売会社として「丸政商店」をここに有明町で創業しました。当時水産業者の多くが屋号に「〇まる」がつけられていたこと、また、人の輪わが繋がりに、全て丸く収まるようにとの思いを込め「丸」を使用することに決めました。そして自身の名から「政」をとって屋号にしました。近隣の住人のほとんどが漁業に従事していたこともあり、創業当初は、自ら船「坂江丸」を建造し、遠くは五島・対馬まで行って、伊勢えび・イサキ等を買付けし、地元有明海では、直接漁船に横付けし海上でイカ・ナゴ・芝エビ等を買付けして、九州一円の市場に卸していました。漁師にとっても、自分でわざわざ市場まで魚を持つていかずとも、海上で買い取ってくれる先代の手法は、とても喜ばれたそうです。1953年からは自社の加工場で水産物・煮干しの加工を始め、1959年には味付海苔の加工、1968年からは全国的にもまだ珍しかった冷凍水産物の加工を始めています。

先代は、先進的な発想で事業拡大していくと同時に、非常に仁義を重んじる性格でした。当時、漁獲量によって仕入れ価格が不安定になる状況を見て、安定供給を実現するにはどうするべきかを考えた末、まだほとんど普及していなかった冷凍倉庫を建設。仕入れた魚介類を加工し冷凍保管する設備が完成したことで、価格の安定はもちろんのこと、従業員の安定雇用も確保できました。当時としては非常に画期的な出来事であり、このことは、今の当社の発展にもつながったと思っています。

「海のものならマルマサ」を キャッチフレーズに事業を拡大

1976年1月に「株式会社丸政水産」に社名を変更。現在は、島原市内に本社、有明（冷凍）工場、海苔工場、珍味工場、鮮魚部、贈答品センター有明店を置き、他に長崎支社・長崎工場、福岡営業所があります。長崎県を中心に、「海のものならマルマサ」のキャッチフレーズを使ったテレビCMもお馴染みとなり、「味にこだわり、品質第一の安心できる水産加工品」をモットーに、「海からの健康」を全国の



3 1



5



4 2



6





坂田社長

皆様の食卓にお届けしています。

主な取扱品は、ズワイガニやタラバガニなどのカニ加工品を筆頭に、海苔、タコ、冷凍魚切り身、煮干し、珍味など海のもの全般になります。2016年からは「島原市ふるさと納税」の返礼品にもなっており、現在は海苔、カニ、珍味など28品が登録され、北海道から沖縄まで全国各地からご注文をいただいています。一度購入いただいた方がリピーターになってくださることも多く、大変嬉しく思っております。

当社の主力商品のひとつである海苔の製品数は約100品にも上ります。こちらも2016年に、島原市の特産品に認定され、「島原スペシャルクオリティ」認定商品としてお墨付きをいただきました。海苔はすべて、

本社がある島原市の目の前に広がる有明海産。佐賀県や福岡県、熊本県などの有明海産の海苔の生産量は全国一、品質や美味しさも高く評価されています。

その中でも「曙光(桐箱)」は、有明海で一番摘みされた中で、各漁協から推奨された、さらに選び抜かれた上等級を使用しています。一番摘みは、若い芽のうちに摘み採られることから、海苔本来の味が強く、風味も抜群。柔らかくて歯切れも良く、口溶けが良いのが特徴です。

1991年6月3日、雲仙普賢岳の大規模火砕流によって、多くの方が犠牲になりました。その時、当時の鐘ヶ江管一市長が、国へ復興のお願いに行かれた時に持参されたのがこの「曙光(桐箱)」です。あけぼのの光をほかに浴びて、柔らかく、薫り高く、たおやかな磯の風味で、当社ブランドとして最高級の製品です。

お客様に満足して頂ける製品作りと地域への感謝の思いを貫く

私自身は、長男だったこともあり、幼い頃から先代の仕事を手伝う中で、「いずれは跡を



11 9



7



10



8

1.対談風景/2.左から長崎支社・長崎工場の坂田専務、岩本支社長/3.海苔工場/4.できたての海苔を試食/5.トレイに自動振り分けされた海苔/6.パッケージの工程/7.桐箱に入った上等級海苔「曙光」/8.贈答品センター有明店を見学/9.島原鉄道とコラボした「マルマサ味付海苔号」と「のり海苔でござる」「かけすぎでござる」/10.島原市のふるさと納税返礼品としても人気のタラバガニ/11.企業メッセージ



最前列左から坂田政士海苔工場長、坂田政文常務、坂田政浩社長、山川頭取、山口支店長(十八親和銀行)。2列目左端 吉田営業企画部長、右端 松本総務部長

継ぐ」という思いで、高校までこの島原で過ごしました。東京水産大学(現・東京海洋大学)を卒業後、米国シアトル大学に編入し、そのまま松江商株式会社(現・兼松株式会社)カナダ・バンクーバー支店へ研修者として入社しました。実際にはアラスカの一角、空港があるだけの極寒の地で「カニ他採取現場研修」だったので、大規模なカニ冷凍工場の現場を見て、学べたことはとても大きかったと思います。帰国すると、水産業全般の勉強のため東京都水産株式会社と、仲卸業を学ぶために近畿魚販売に、それぞれ1年ほど在籍。そして25歳になる1985年に丸政水産に戻り、その1年後に取締役に就任、1999年に代表取締役社長となりました。

現在も先代と同様、自ら海苔の入札買付を行い、さらに各工場の責任者と共に鮮魚・魚介類の仕入れに携わっています。自らの目で観、手で触れて選び抜いた最高品質の原料からお客様に喜んで頂ける製品作りを目指しています。今は、私の子どもたちも入社し、長男は海苔工場の工場長として頑張ってくれており、跡を継いでくれることを期待しています。

創業して72年、私たちが受け継いできた

のは、魚介類への感謝、お客様、地域社会、取引先への感謝を忘れず、一品一品感謝の気持ちを込めた製品づくりにこだわり続けることです。その地域への感謝の気持ちの一つとして海苔業界が制定している2月6日の「海苔の日」には、毎年、島原市内の小中学校の給食に自社の味付海苔を寄贈しています。地域の子どもたちに「郷土の恵み」を感じてもらい、地域産業への興味や関心を高めてもらえたらと思っています。

また、2022年4月からは島原鉄道とのコラボ商品、味付海苔の「のり海苔でござる」、海苔ふりかけの「かけすぎでござる」の販売を開始しました。現在、主要駅での販売に加え、島原鉄道では「マルマサ味付海苔号」が運行しています。

さらに、取引先の皆様とは、先代が大のゴルフ好きであったことから始まった親睦コンペ「マルマサ会」を通じて、交流を深めています。毎月1回の開催で、2020年7月で555回の記念大会を開催し、2024年4月には600回を迎える予定です。一私企業のコンペで、これだけ数える例はほとんどないのではないかと思います。

家庭・子育ての両立を目指し 従業員の働く環境を整備

当社を支えている従業員の多くは、地元女性の皆さんです。そこで女性が活躍できる社会実現のための行動計画を2022年1月に策定し、仕事と家庭・子育てを両立させ、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。目標は「産休後の職場復帰者の定着率を10%増加させる」ことです。希望者には、産休後の職場復帰に対し、児童が3歳の誕生日まで定時退社を推奨するといった取り組みを進めます。産休、育児・介護制度も充実しており、実際に産後も多数の従業員が働いてくれます。

就業規則にも明記している「積極的に、かつ誠実に従業員同士の『和』をもってその業務を遂行する」ことができる会社であり続けるよう、そして何よりもお客様に本当に満足していただけるものをお届けできるよう、安定した雇用や経営の継続にこれからも努めてまいります。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 山川 信彦

海の恵み豊かな有明海に臨むここ長崎県島原市で、70年以上にわたり水産加工業一筋に歩んで来られました。地元の方々の安定雇用、冷凍技術にいち早く取り組まれたことによる安定供給など、地域への貢献は計り知れません。

「海からの健康を皆様の食卓へ」をモットーに、味にこだわり、品質第一の安心できる水産加工品づくりへの誠実な姿勢を大切にされ、これからもさらに発展されることを心よりお祈りいたします。



Sustainable Kyushu

さすてなぶる九州

株式会社 谷川建設 たにがわけんせつ
代表取締役

谷川 喜一氏

Kiichi Tanigawa

取引店／福岡銀行長崎支店
十八親和銀行本店営業部



「木を愛する」私たちがだからできること。 自然環境との共存を図りながら 持続可能な社会の実現に向け取り組む。

創業以来、家づくりを通じて人々に心のやすらぎを提案し、社会に貢献するという一貫した哲学のもと、株式会社谷川建設では、日本の伝統建築材である「檜ひのき」をつかった家づくりを続けてこられました。

その理念に基づき、同社では、2020年3月から持続可能な開発目標であるSDGsの活動に本格的に取り組みべく、社内横断的にチームを編成。社員から集まった課題をまとめた4つのテーマの下、省エネ住宅の実現や、社会貢献活動などについて、谷川喜一社長にお話を伺いました。

まずは私たちの「檜」へのこだわりからお話します。1972年12月、長崎県の五島にて祖父が営んでいた谷川商事から、その住宅部門を父が独立させ、長崎市にて株式会社谷川建設を設立しました。当時は、戸建住宅ブームで「建てれば売れる」時代の中にあっても、私たちはゼロからお客様の要望をお聞きし、丁寧な家づくりを続けてきました。

特にこだわってきたのが日本伝統である檜をつかった家づくりです。使用するの国内有数の生産地である長野県木曾谷にそびえる木曾檜をはじめとする国産材で、当社は木に対する愛情をずっと大切にしてきました。しかし、木は育てなければいつか尽きてしまいます。木を愛し続けてきた私たちだからできる

社会貢献は何か、未来に向けて何かできないかを考え、SDGsへの取り組みを本格化させていきました。

2020年3月から7カ月間ほどかけて、結成された「SDGs推進委員会」のメンバーが社員にヒアリングを重ねながら、「SDGsでこういうことを取り組んでいきたい」という課題の抽出を行っていきました。そこで



SDGs推進委員会のメンバー

出てきたテーマは、なんと347件にも上りました。

それらの中から重要度が高いものを優先してまとめ、「豊かな地域・社会づくり」「社員が能力を発揮できる組織づくり」「温暖化を抑制する環境づくり」「誠実で透明性のある事業の推進」の4テーマに集約。当社が2030年までに実現する持続可能な開発目標SDGsのテーマと、社員一人ひとりが考え、実行していくことにしました。

事業を通じて実現していく

「豊かな地域・社会づくり」

このテーマで実現するのは、家づくり、街づくりを通じた持続可能な社会の実現への貢献です。人にも環境にも優しい家づくりは、「檜の家づくり」をテーマとしてきた私たちにとっては当然のことですが、よりお客様の安全やその願いを実現することを目指していきたいと考えています。

具体的には、カスタマーサービスの充実をはじめ、お客様の人生に寄り添う「ワンストップ

トータルソリューション」を提唱し、お客様のニーズをより実現していきたいと考えています。その成果の証として、オリコン顧客満足度ランキングのハウスメーカー注文住宅・木造部門の上位入賞といった客観的な評価を獲得することを一つの目標として取り組んでいます。

人がブランドになる会社へ

「社員が能力を発揮できる組織づくり」

社員に向けてどのような人材教育をするべきかを考えた時に、私たちは「人がブランドになる」と考えました。木に例えた場合、これまでは枝や葉の部分である職種ごとの専門性を高めることに注力してきたのですが、もっと幹や根元の部分である人としての成長、コミュニケーション能力の向上など汎用的なスキルを伸ばしていかなければならないと考えました。また、全ての社員が働きやすいワークライフバランスへの取り組み、労働条件の改善を行い、一人ひとりの能力が開花できるよう丁寧に向き合っていきたいと思っています。

省エネ住宅と植林活動で実現する「温暖化を抑制する環境づくり」

これは、当社の家づくりと直結する取り組みになります。一つ目は、省エネルギーや再生可能エネルギー、自然材を利用した環境配慮型住宅のリーディングカンパニーとして、エネルギーの循環型社会の構築に貢献します。

2020年10月の臨時国会で、当時の菅義偉総理が宣言した2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする「2050年カーボンニュートラル宣言」の実現に向けて、私たちは温室効果ガスの排出量を2030年度までに46%削減する目標を掲げ、あらゆる取り組みを始めています。

その一つとして、当社の注文住宅において、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「ZEH^{ゼロ}」のレベルを上げていくことに尽力していきます。「ZEH」とは、家の断熱性能を高め、エネルギー効率の高い設備機器を利用して消費エネルギーを削減し、太陽光発電などで自らエネルギーを創り、エネルギー収支を概ねプラスマイナスゼロにする経済産業省が推進している事業です。

Sustainable
Kyushu



2



3



1



5



4

1.2025年度までにZEH住宅達成率50%を目指す／
2.全戸ZEH仕様の街「エテルナガーデン女の都
(めのと)」／3.地球温暖化防止などの環境問題を
踏まえ稼働した第一ソーラー発電所(長崎県佐世保
市)／4.昨年竣工したMICE施設「出島メッセ長崎」の
施工に参画するとともに、こけら落としイベントで小学
生対象の職業体験イベントを開催／5.地元小学生と
行った植林活動／6.会談中の谷川社長



6



左から谷川社長、溝上支店長(福岡銀行)

谷川建設では、さらに檜の家のメリットをプラスした「ZEH+Tree」を提案しています。檜にはダニやカビ防止となる調湿効果、抗カビ・防蟻、防ダニも期待できる抗菌効果、そして脱臭効果をも持つと言われています。ZEHの力でエネルギー消費を抑え、コントロールするだけでなく、檜が本来の持つ力を活かすことで、快適性や健康面にまで配慮する家づくり、

つまり「ZEH」と「Tree」の両方を活かした「smart wellness house」を提唱し、地球にも人にも優しい家づくりを進めています。

既に、地元である東長崎エコタウン構想の一環で、この「ZEH対応住宅（ENEハウス）」の共同研究を行いました。屋根下地遮熱シート施工や檜無垢柱・フロアなどを採用した自社の特性を活かした建物性能に、太陽光発電や高効率エアコン、オール電化・蓄電池などのZEHの関連機器、風の流れを考慮した設計や落葉高木や芝による日射調整・対策といったパッシブ省エネ手法を取り入れた究極の省エネルギー住宅の実現を目指しているところです。

もう一つの大きな取り組みとして、植林活動などの林業支援を通して地球の温暖化を抑制し、豊かな自然を守りたいと考えています。

近年、森林の高齢化が問題になっており、日本では人工林の半分以上が樹齢50年を超えている状況です。木は樹齢40年を過ぎると、二酸化炭素を吸収する量も頭打ちとなり、光合成が減ると言われています。手入れが行き届かないまま、荒廃してしまった放置林も多く存在して

おり、これが昨今頻発している土砂災害などの自然災害を大きくする要因にもなっています。そんな育ちきった木の手入れをし、新しい木を植え続けることに、少しでも役に立ちたいと、私たちは植林活動を始めました。

これまで、谷川建設では家を建てる際に使った柱の本数分の植林を行ってきました。1棟あたりに使う柱は約100本。これまで建てた家の数は19,000棟以上、建てた棟数に見合う植林を行っています。この活動をさらに、地域の方と一緒に行うべく、2021年11月には長崎県佐世保市世知原にて、地元小学生の皆さんと一緒に400本もの苗木を植えました。これからも、自然への感謝の気持ちを忘れることなく、持続可能な社会の実現を目指したいと思えます。

地域や社会に貢献する

「誠実で透明性のある事業の推進」

この取り組みは、コンプライアンス遵守を徹底し、誠実で透明性のある事業推進を実現するため、諸法令・社内規程を遵守するとともに、



本社前にて

株式会社 谷川建設

- 所在地：
〒852-8115 長崎市岡町9-1
- 電話番号：
095-848-3552
- 事業拠点：
長崎県、福岡県、佐賀県、
熊本県、大分県、鹿児島県、
広島県、東京都



社会規範に沿った責任ある行動をとることを目的としています。社員に対しては、弁護士による相談窓口を設けるなど、相談しやすい職場づくりを進めています。

社外活動については、各行政が行っている「SDGs登録制度」を活用した取り組みを

始めています。実際に子どもたちに「大工体験」を通して、さまざまな仕事を学んでもらうワークショップを開催しています。棟梁、プレカット・工事部の社員が先生となり、「のこぎりで切り」「くぎを打ち」「鉋で削り」「やすりを掛けて」檜の本棚などを制作しています。

これらの取り組みを通して、社内外の人材育成や教育活動支援など地域貢献・社会づくりに取り組んでいけたらと願っています。

現在、FFGが取り扱いを開始した、SDGs取り組みの評価・分析を通じてサステナビリティ活動をサポートする「サステナブルスケールインデックス」の審査を受けているところで、さまざまなアドバイスをいただきながら、より有意義な取り組みになるよう、今後も努力し続けてまいります。

FFG経営者クラブ会員様限定トップセミナー

勝ち続けるための 信念と覚悟

～未来を見る・創る・拓くために～

勝ち続けることの難しさ、そしてその中で何を大切にチームを作っていくのか、選手と関わっていくのか、選手の可能性を最大限引き出すという前提のもと、監督時代に実践してきた内容や意識したこと、失敗やエピソードを踏まえてお話いただきます。



講師

福岡ソフトバンクホークス 前監督

くどう

きみやす

工藤

公康氏

1963年5月5日生まれ

1981年名古屋電気高校から投手として西武ライオンズに入団

1982年～2010年西武-ダイエー-巨人-横浜-西武でプレー（実働29年）

2012年～2014年解説者・スポーツキャスターとして活動

2014年春筑波大学大学院人間総合科学研究科入学

2015年福岡ソフトバンクホークス監督就任

2020年春筑波大学大学院人間総合科学研究科修了（体育学修士）

2021年10月福岡ソフトバンクホークス監督退任

2022年4月からは筑波大学大学院の博士課程に進学し、スポーツ医学博士取得に向け、子どもたちの障害予防の研究や検診活動を行なう。

開催
日時

2022年 **10月28日** **金** **14:00～15:30**
開場13:30

会場

ソラリア西鉄ホテル福岡
8階大広間「彩雲」
(福岡市中央区天神2-2-43)

定員

200名

申込
締切

10月18日 **火**

対象

FFG経営者クラブ会員様限定

受講料

無料

主催

FFG経営者クラブ、福岡銀行、熊本銀行、十八親和銀行、
FFGビジネスコンサルティング

1社2名様までの参加申込にてお願いいたします。
FFGビジネスコンサルティングのホームページにアクセスの上、
「商談会・セミナー情報」よりお申込みください。

お申込み
お問い合わせ先

TEL. 092-723-2241
FAX. 092-721-9258

<http://www.ffgbc.com/>

株式会社FFGビジネスコンサルティング内
FFG経営者クラブ事務局
〒810-0001 福岡市中央区天神2-13-1 (担当:岩谷・田中)
受付時間 9:00～17:00 (但し、銀行休業日は除く)



デジタルを活用したスタートアップ企業と地域の企業のみなさまとのマッチングを目的としたビジネスコンテスト「X-Tech Innovation2022」ゲストパートナーを募集中!

X-Tech Innovation 2022

2022.07



2023.01



Break the Standards!

“常識の殻を破れ!”

コンテストの趣旨

「X-Tech Innovation」は、各業界・業種を横断するデジタルテクノロジーを活用した新しいサービスを広く応募する、FFG主催のビジネスコンテストです。地域の企業のみなさまとスタートアップ企業とのマッチング機会を提供することで、地域の企業のみなさまのビジネスアイデアの事業化に向けたサポートや既存ビジネスへの活用可能性を模索し、地域経済の活性化に貢献致します。

ふくおかフィナンシャルグループほか、北海道銀行・岩手銀行・七十七銀行・沖縄銀行の共催で全4地区にて実施致します。

日時・場所

2022年12月1日(木) FFGホール
(福岡市中央区天神2-13-1 福岡銀行本店地下)

ゲストパートナーとは

地区大会にご参加いただき、ご登壇企業(スタートアップ)とのマッチングを希望される企業のことです。ビジネスコンテスト終了後、ご登壇企業(スタートアップ)との交流会を予定しています。

募集テーマ

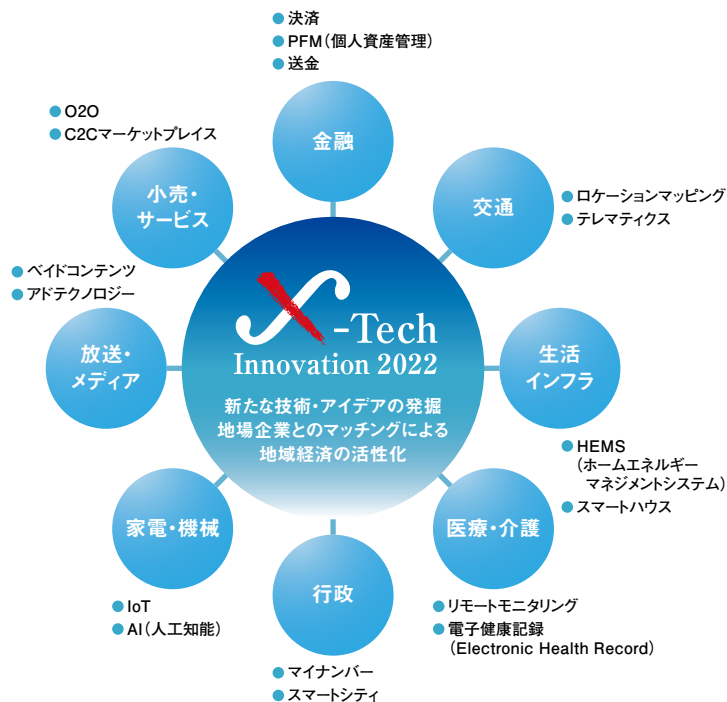
下記いずれかの募集テーマに沿ったスタートアップ企業が登壇致します。

Re-design With Digital

IT技術の発展や新型コロナウイルスの流行によって、日常生活や経済・社会は大きく変化し、これまでデジタル化が進まなかった領域においてもデジタルを活用した新しいビジネス変革が求められています。しかし新たな変革を生み出すには既存の文化や仕組みによって、容易には進まない現状があります。そこで本コンテストでは、これまで当たり前だった社会やビジネスの構造を、デジタル技術を活用してリデザイン(再設計)し、新たな価値を提供するサービスを募集するため、「Re-design With Digital」を全地区共通の募集テーマと致しました。

ゲストパートナーをご希望される方は、右記特設サイトからご登録をお願いします(9月末締切) →

※ビジネスコンテスト終了後、登壇するスタートアップ企業との交流会を予定しております。



データエコノミー

あらゆる分野でデータを活用したサービスが普及しており、今やデータは、ビジネスにおける重要な資源になっています。しかし、いまだにデータの経済的な価値化に成功する企業は少数で、今後さらなる発展には、地域や企業規模の大小問わず業界・業種を横断してデータの価値を向上させるサービスが重要となってきます。そこで、九州地区独自の募集テーマを「データエコノミー」とし、個人の行動や企業活動を支える社会的な基盤となるデータエコノミーを構築し、発展に資するサービス・アイデアを募集します。

大野城市市制50周年記念事業 まどかマルシェ開催!

2022年9月10日(土)福岡県大野城市で
市制50周年を記念したイベントが開催されます。

福岡県中西部の筑紫地域に位置する大野城市は、福岡市のベッドタウンとして毎年人口が増加し、発展を続けている都市です。市域中央部をJR鹿児島本線、および西鉄天神大牟田線が並行して南北に貫通し、博多・天神までの交通アクセスの良さも人が集まる要因となっています。

このように環境に優れた大野城市は、2022年に市制50周年を迎えました。

市制50周年記念事業の取り組みの一環として大野城地域を舞台とした「まどかマルシェ」が開催されます。

まどかマルシェは、西鉄沿線駅前や、大野城市役所前のまどか広場の市内4カ所で、商店会、にぎわいづくり協議会、NPO、福祉団体等が、同日出店し、それぞれ特色のある事業を実施します。

当イベントの目的は、市内外

の来場者がその事業を体験することで大野城市の魅力を発見・再認識し、発信につなげることです。また、高架化された西鉄沿線高架下の新たなにぎわい創出の一助となることが期待されています。

当日は9時から18時まで限定で、西鉄電車下大利駅・白木原駅・春日原駅間の乗車が無料(※)になります。

※記念乗車券の提示が必要になります。記念乗車券は当日、右記の各駅で配布されます(おひとり様につき1枚のみ)。3駅以外の区間のご利用は通常運賃になります。

また、当日限定のシャトルバスも運行しており、平野中学校⇄下大利駅と東コミュニティセンター⇄白木原駅の2区間を往復する予定です。

7つの会場全てをまわると、総額50万円分相当の豪華景品があたるスタンプラリーも開催されます。

大野城市の市民と行政がともに取り組み、市全体で協力しながら盛り上げる「まどかマルシェ」に是非ご来場ください。

会場		内容
大野城市役所会場	まどか広場	総合開会式・出店・ステージイベント
	大野城心のふるさと館	オリジナルグッズの販売・フェア
下大利会場	下大利駅西口駅前広場	出店・ステージイベント
白木原会場	白木原駅東口駅前広場	eスポーツ・のど自慢大会・出店
	大野中学校	いろんな車大集合展
春日原会場	春日原駅前通り	軽トラ市・謎解きゲーム
	春日原1号~2号踏切	廃線ウォーク(約250mの区間)

大野城市
市制50周年記念事業



MADOKA
まどか
マルシェ
MARCHÉ

2022 入場無料

9.10 土

10:00 - 17:00



春日原駅前通り会場

大野城イオン前を歩行者天国にして九州各地の物産品を乗せたトラックが大集結! キッチンカーやハンドメイド雑貨のお店も多数出店! 豪華景品が当たる「商店街クイズラリー」など"まるっと"1日楽しめるイベントで盛り!

大野城市役所会場

新たにオープンした大野城市役所「まどか広場」で大野城フェアを開催! BMXのパフォーマンスやジャズ、私の50自慢ステージも! グルメでは、キッチンカーやスイーツなど選りすぐりの大野城の美味しいものが大集合!

白木原会場

e-sportsやのど自慢大会など、子どもから大人まで楽しめるイベントを開催!
※詳細はホームページをご覧ください。

下大利会場

同時開催のスタンプラリーをクリアした人に「JTB旅行券や任天堂Switch」が当たるWチャンス福引大会開催! グルメと音楽! 街をあげて大騒ぎだよ~

全会場を楽しもう!

西鉄電車記念無料乗車券発行

9月10日(土)9:00~18:00は、西鉄電車下大利駅・白木原駅・春日原駅間は無料になります!
※記念乗車券を駅窓口にて提示することでご利用になれます。
※記念乗車券は当日、下大利駅、白木原駅、春日原駅にて配布します(おひとり様につき1枚のみ)。
※3駅以外の区間のご利用は通常運賃をお支払いいただきます。駅窓口にてお支払い下さい。

スタンプラリー

まどかマルシェスタンプラリー開催!

商品総額 **50** 万円分相当!

7つのチェックポイントでスタンプを集めて、豪華賞品を当てよう!

誰でも参加可能

イベント詳細はこちら



主催

大野城市市制50周年記念事業実行委員会
(事務局:大野城市経営戦略課内 ☎092-580-1805)

協力

西日本鉄道株式会社 / 大野城市商工会 / 下大利商店会 / 南ヶ丘商店会 / 白木原商店会 / 錦町通り商店会 / 下大利駅西口まちづくり協議会 / 白木原区まちづくり協議会 / 筒井錦町まちづくり研究会 / 大野城市文化連盟 / 自衛隊福岡地方協力本部 / 福岡県警察 / 春日警察署 / 春日・大野城・那珂川消防本部 / 有限会社大野城美掃 / 有限会社クリーンみかさ / 株式会社大野環境 / 有限会社吉田自動車 / 九州電力配電株式会社福岡支社 / NPO法人共働のまち大野城 / 一般社団法人大野城市にぎわいづくり協議会 / 大野城市

その他イベントも開催!

廃線ウォーク

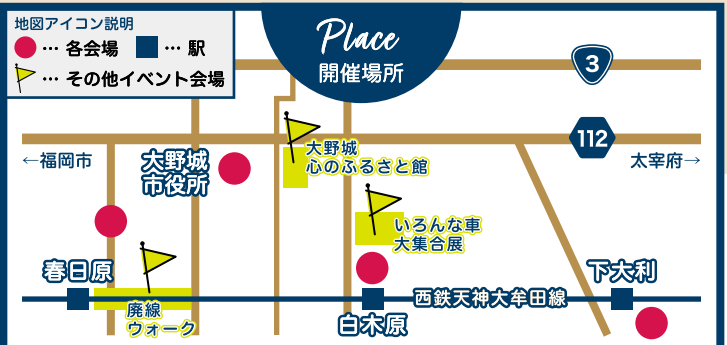
撤去される線路の上を歩くことができる廃線ウォーク開催! その他イベントも開催!

大野城心のふるさと館

館オリジナルグッズの展示とフェアを開催!

いろんな車大集合展

消防車やパトカー、自衛隊車両、その他いろんな車が大集合! 抽選で一部乗車体験開催!



駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。
当日はシャトルバス(平野中学校前⇄下大利駅、東コミュニティセンター⇄白木原駅)を運行します。新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、内容を変更する場合があります。

FFGが提供するビジネスマッチング

ビジネス マッチング システム

FFG BMS

新たな取引を開拓したいと
き、BMSに情報登録すると
FFGネットワークによるきめ
細やかなサポートで、簡単かつ効
率的に自社の製品や技術を発信
できます。

このコーナーでは実際にご登
録されているマッチング可能な
企業様をご紹介します。



FFG BMS 登録情報のご紹介

提供企業・商品・サービスについてのお問い合わせは、近隣のお取引のある銀行窓口を通じてお願いします。

蔵田工業株式会社

止水板を住宅や施設、地下空間の入り口に設置して 水害リスクから建物を守りませんか？

お勧めのポイント

アイランド発の「DAM EASY」は、優れたデザインとユニークな機構を持つ止水板です。横方向に伸縮可能、内蔵ポンプで膨張シールを膨らませ水密性を高めます。小型・軽量で持ち運びが容易、省スペースで保管可能です。常設レールの取り付けが不要で、美観に影響を与えません。非常設の延長用ポールを設置することで幅の広い間口にも対応が出来ます。

企業情報

蔵田工業株式会社は株式会社荏原製作所の九州地区代理店です。創業100周年を迎え、ポンプ設備を始めとする水インフラに携わり、地域の安全を守り続けています。2020年9月には、水害から守るソリューションを提供する新規事業を立ち上げ、海外のユニークな防災製品の輸入販売を行い、今もこれからも社会に貢献する企業としての取り組みを一層に強めています。



蔵田工業株式会社
KURATA IND.CO.,LTD

【所在地】福岡市南区大楠2-12-12
【業種】建設業、輸入販売業
【紹介支店】福岡銀行 渡辺通支店



屋内外の看板広告を 優れたデザインでPRしてみませんか？

お勧めのポイント

看板やイベントPOPで事業PRをデザイン・加工・設置までワンストップで行っており、受注から納品までをフレキシブルに対応しています。永年にわたり、県下最大の百貨店様から美術サインの製作・設置を受注してきた実績もあります。お客様のニーズに応え、ご希望に沿ったPRサインをご提供します。

企業情報

1963年創業。熊本県を中心に数多くの屋内外看板広告施工を行ってきた実績があり、確かな技術力・デザイン力・対応力でお客様から厚い信頼を得ています。イベント会場造作やイルミネーション等も行っており、お客様のPR事業をお手伝いしています。また、屋外広告物の点検作業を通じて、看板周辺の安全性維持にも貢献されています。



表現社の社屋

【所在地】 熊本市中央区九品寺1-3-9

【業種】 広告美術業

【紹介支店】 熊本銀行 下通支店

毎週違う産地から厳選し新鮮な花を オフィス・ご自宅へ定期的にお届け致します。

お勧めのポイント

『花なび定期便』では、生産者が丹精込めて育てた、新鮮な美しい季節の花をお客様のオフィス・ご自宅へお届けします。

九州産を主に地産地消にこだわり、産地を紹介しながら、魅力をお届けしています。

こんな花が地元にあったのかと『おどろき』と『感動』そして『癒し』を味わうことができます。

企業情報

1993年創業。生花の仲卸業を中心に冠婚葬祭部門・花束加工部門・外商部門と花の総合商社として、社員総勢64名の機動力でお客様に『花のある生活』をお届けしています。

1月早期に咲く啓翁桜と長崎の酒造会社杵の川との異業種コラボ『花me酒』は季節の贈答品として、大変ご好評の日本酒です。



【所在地】 長崎市中里町1666-1

【業種】 生花仲卸業

【紹介支店】 十八親和銀行 東長崎支店



vol.19

START UP Company

今月の注目スタートアップ

ここで紹介するスタートアップ企業は、ふくおかフィナンシャルグループの投資会社 FFGベンチャービジネスパートナーズが運営するベンチャーファンドが投資しています。

 **バツクリ**
PLAY - LEARN - CONNECT

#つながり、エンゲージメント、モチベーションを上げる
組織課題を解決する社内イベントDX「バツクリ」



バズクリはオンラインで社員同士の関係構築ができるチームビルディングサービスです。

テレワークで失われがちな「社員同士のつながり」、「オフコミュニケーション」、「部門横断的な接点」を、アソビを通じたワークショップで創り出し、モチベーションとエンゲージメントを向上させることができます。



オンラインとアソビの強みを活かして場所と立場の制約を超えることで、普段接点のない人たちと体験を通じて仲良くなるので、リアルな飲み会や社内イベントよりも短時間で深い相互理解を実現します。

バズクリというサービスは立ち上げて約半年でまだ無名ではありますが、参加者平均満足度97%かつ80%以上が上場企業顧客という信頼と実績ある企画と、事故率0%というプロの研修講師／司会者による運営で、人事担当が安心して楽に「つながり」創りを導入することができます。

入社式まで顔を合わせることができない内定者、入社後も交流できない未だに敬語で話す新入社員、コロナ禍のオンラインインタビュー、テレワークで部下と本音で話せない管理職／マネージャー、先が見えない不安に悩む経営層、リアルな接点を失った法人顧客、イベントができず企画に困る労働組合など、すべての社員の「関係構築」をアップデートします。

オンラインでも研修やOJTで業務に必要なスキルを身に付けることができますが、オンラインでヒトとヒトとの関係構築には限界がありま

す。まずは自分を知り、次に相手を知る。そして相手と共に同じ目標を目指して協力する。そうやってお互いの信頼関係が生まれてくるのではないのでしょうか？バズクリはそれを「オンライン」で「アソビ」を通して実現します。

これまでに、オンライン内定者交流会、新入社員の振り返り、オンラインインタビュー、飲み会／交流会の代替え、キックオフや全社会のアイスブレイク、ダイバーシティー研修、キャリア研修など様々なシーンでバズクリを提供してきました。

研修と社内イベントの中間のような「やらされている感のない研修」、「意義のある社内イベント」という位置づけで、新時代の社内コミュニケーションDXを目指していきます。



会社概要

バズクリ株式会社
(旧プレイライフ株式会社)



代表取締役社長 佐藤 太一

所在地 東京都港区南青山3-3-3
リビエラ南青山ビルA
WORKING PARK EN 201室

電話番号 03-6822-6613

メールアドレス info@buzzkuri.co.jp

ホームページ <https://buzzkuri.com/>

地域と共生するFFG

屋台村
プロジェクト



ちゅうおうけいそう
株式会社 中央計装
おかだ けんじ
代表取締役 岡田 健二 氏
取引店：福岡銀行 北九州営業部



玄海旅館にて、岡田社長

世界遺産の玄関口に賑わいを取り戻す 漁港宿場町の復興プロジェクト

福岡県宗像市神湊^{こうのみと}。「神宿る島」として知られる世界遺産『宗像・沖ノ島と関連遺産群』の玄関口となる地域であり、かつては宗像郡玄海町の中心として10軒ほどの旅館が軒を連ね、毎週日曜日には漁港の朝市に人が群がり、夕方には浴衣姿の観光客が集まって栄えた漁港宿場町でした。

その神湊で2020年、絶好のロケーションを活かしたカフェ「岡八」を開業し、老舗旅館「玄海旅館」の経営も引き継いだのが、北九州市小倉北区長浜町に本社を置く電気工事会社株式会社中央計装の岡田健二社長。地元住民との交流から、神湊に当時の賑わいを取り戻すための「屋台村プロジェクト」を立ち上げ、スタートさせました。

神湊で活性化を目指す岡田社長に地域復興についての想いを伺いました。

海に面したカフェを開く まずは地域雇用に貢献

そもそも、なぜ地元住民でない私が、神湊で地域復興に関わっているのかといいますと、自社の社員の福利厚生、取引先との接待、仕事仲間との交流、人材募集のPRを目的にカフェ岡八を、ここ神湊に開業したことがきっかけになりました。

子どもの頃から釣りをするために神湊へはよく来ていましたから、ある程度の土地勘はありました。磯遊びや魚釣りができる自然に恵まれていて、経営する中央計装の本社がある北九州市と福岡営業所のある福岡市との中間点であったのが、この土地を選んだ決め手です。カフェとはいえ、プールやビリ

ヤード場を併設し、プロジェクトを使って会議ができるスペースを設けたのも、そういった理由からで、ワーケーションに利用できる宿泊施設の機能も持たせています。

建物は廃業した旅館を買い取って改装したもので、多くの仕事仲間を声を掛けて、ほとんど自分たちの手によるものです。開業後の運営スタッフは通常日で3名。提供するメニューは軽食、BBQ、ドリンク等と、セルフサービススタイルを採用しています。雇用した



カフェ岡八のエントランス



カフェ岡八を切り盛りする責任者 添田さん

正社員3名はすべて地元の若者で、そのうち2名は漁師一家の生まれ。私は飲食の知識が無い為、完全に運営を任されている責任感と、地元を誇りを持っていることもあり、私の期待をはるかに超えて店の発展に尽力してくれています。

カフェのコンセプトは「休日自然で遊ぶ」。港の中心部から少し奥まった場所にあるにもかかわらず、コロナ禍でちょうどよい

遊び場を求めていた人たちのニーズに合致したのか、昨年3月にオープンして以来、昨年の来場者数は1万5千人を超え、今年は4万人を見込める勢いとなっています。

歴史ある旅館の灯を消さないために

カフェをきっかけにして、地元の人たちとの縁が徐々にできていく中で、開業六十余年の「玄海旅館」を守っていた三代目女将から「この旅館を引き継がないか」と、話を頂きました。

宗像市全体では、世界遺産の宗像大社、全国屈指の来場者数を誇る「道の駅むなかた」、フェリー利用者が年間20万人を超える筑前大島といった大きな集客力のある観光スポットがあるものの、その他の場所は、ほとんどがただの通過点になっているのが現状です。

また、神湊の漁港はイカの水揚げ港として知られ、津屋崎千軒せんけんかきも有名ですが、名産品としていち早くブランディングに成功した

呼子のイカ、糸島のカキ小屋に先手を取られ差をつけられてしまった感があります。そして、集客面で勢いを失った当地区の大形旅館は徐々に姿を消していった結果、ついに、玄界灘に臨み100名以上の宴会客を収容できる旅館は、ここ1軒だけになっていました。

事業再構築補助金の活用と福岡銀行の協力を受け、経営の引き継ぎを決意し、全従業員の雇用を守ることにしたのです。



玄海旅館を切り盛りする責任者 入江さん



1.カフェ岡八の目の前では磯遊びも楽しめる／2.カフェ岡八の施設内には会議スペースなども併設している／3.玄海旅館でいただける豪華なランチの一例／4.全室オーシャンビューの玄海旅館の居室／5.100名以上を収容できる玄海旅館の宴会場

海の恵みと人的資源が財産 土地の強みを活かす取り組みへ

このような経緯で引き受けた旅館経営ではありますが、なにぶん資金力の乏しい一旅館の取り組みだけでは、宗像神湊という地に全国から来客者を集めるレベルに、発信力、集客力を高めようにも限りがあります。

そこで、私が考え抜いて導き出した結論が「一人でできないなら、周りに協力してもらえばいい」ということ。神湊には、全国から釣り人が集まって遊漁船の予約が3か月先まで埋まっている名物船長がいます。美味しい魚やイカを獲る名人と知られる漁師がいます。カフェ岡八のスタッフのように、地元生まれ育って海に詳しく、釣りや磯遊びを教えられる人もたくさんいます。また、旅館の目の前は、地元漁協が稚魚を放流するためアビビやサザエの豊かな漁場となっており、環境的な魅力もあります。

地域の人たちが力を合わせ、各々の能力を活かして人を呼び込み、神湊を盛り上げればいい。そんな想いから生まれたのが、

老舗旅館と地元漁師がタッグを組んで地域復興を目指す「屋台村プロジェクト」の構想です。

まず、地元の漁師たちに話したところ、「遊漁船は魚を釣らせるだけじゃなく、下船後も魚を捌くなどしてお客さんを持って成したい」「全国でも指折りの好漁場で昔は漁港宿場町として賑わっていたのに。昔の賑わいを取り戻すためなら協力する」と、漁協をあげての協力を申し出てくれました。

さらに、地域の歴史ある料理店、地元の名産品を扱う商店、道の駅、宗像市の関係各部署の方々からも同じく、「昔の華やかさを取り戻すためなら協力する」と言って頂きました。

楽しい体験を売って 集客力を高める戦略

屋台村プロジェクトにおける最大の特徴は、地元の漁師たちが出店して、自慢の海産物を振舞いあう点です。海産物はそのまま売るだけでなく、イカを天ぷらにしたり

アナゴを白焼きにしたりと、調理して提供するメニューも用意します。獲れたてのおいしさを競い合って、地元の出店者全員で盛り上げる仕組みの屋台村の名前を旧玄海町である事より、「玄海横丁」と名付けました。

場所は玄海旅館横で、フェリー乗り場に向かう道沿いにあります。砂浜に面しているので屋台村には海側にデッキを設け、子どもたちを遊ばせながら食事を楽しめ、ゆつたりと過ごせる場を提供します。夏には盆踊りも予定しており、地元住民も一緒に賑わう光景を夢見ています。



海からの風景(正面・玄海旅館／右奥隣・屋台村建設地)

屋台村の事業計画でとくに意識しているのが、「モノ」から「コト」へと変わった人々の消費志向です。屋台村から一望できる海そのものが、遠方からの来場者には特別な景観であり、思い出深い体験になるはず。その海を彩るように大漁旗を並べる演出により、更に気分が盛り上がる事でしょう。また、例年10月の宗像大社秋季大祭に併せて行われる、神湊の海上神幸行事、えんや〜♪でお馴染み「みあれ祭」の当日には、屋台村は海上の祭を観賞できる特等席となります。



みあれ祭



宗像市内周遊を予定しているトゥクトゥクに乗って
(左から岡田社長、福岡銀行執行役員山中北九州営業部長、瀧口副部長)



代表取締役
岡田 健二

本社:北九州市小倉北区長浜町6-10
TEL 093-522-0787
営業所:福岡・東京・大阪

海カフェ **岡八**
海の幸の店 **玄海旅館**
漁師屋台村 **玄海横丁**
MAIL okadakenji@outlook.jp





OKAIACHIA

もちろん、魚釣り、磯遊び、マリンスポーツ、BBQなども、屋台村を訪れた人が体験できるように準備を進めています。

当面は、漁師が既存事業での収益を損なわずに済むよう、日曜日だけの出店を計画し、日曜日以外は、玄海旅館で従来提供している海鮮食を中心に販売する予定です。玄海旅館の食事を楽しみに来訪される

リピーターが多いため、これを機により多くの人たちに老舗旅館の味を気軽に楽しんでもらえたらと考えています。

神湊復興の起爆剤を目指す

屋台村構想で当地に呼び込みたいのは、20〜50代を中心とした子育て世代。集客

効果が地域に波及することで、地域全体での既存事業の向上と新規雇用の促進につながるものと捉えています。

まずは、地域復興の起爆剤としての成功を目指し、今年の11月には屋台村開業とともに復興を祈念した花火を500発打ち上げます。

未来へつなぐ。事業も、想いも。

FFG Succession

始動



地方銀行グループで 初めてM&A・事業承継 専門会社を設立

2022年4月1日、株式会社FFG Succession（以下、FFGサクセッション）は、FFGの100%子会社として事業を開始いたしました。

近年社会問題化する事業の承継Ⅱ「サクセッション」に、FFG一体となって全力で取り組んでいます。

地方銀行グループでこのようなM&A・事業承継の専門会社を設立することは珍しく、高度な専門人材の育成、外部事業者との機動的なアライアンス構築により、九州の地域企業のオーナー経営者の皆様の事業承継の円滑化、成長戦略の実行をお手伝いさせていただきます。

Top interview

トップインタビュー

本年4月1日にFFGサクセションの新社長に就任した原田社長と、包括業務提携を締結したHLサクセションの二戸社長にお話を伺いました。

株式会社 FFG Succession

はらだ りょう
代表取締役社長 原田 亮



- 【本社所在地】 〒815-0083
福岡市南区高宮5丁目2-5
- 【本社TEL】 092-707-2691
- 【長崎オフィス】 長崎市銅座町1番11号
(十八親和銀行ソリューション営業部内)
- 【熊本オフィス】 熊本市中央区水前寺6丁目29-20
(熊本銀行ソリューション営業部内)
- 【設 立】 2022年4月1日
- 【資本金・資本準備金】 2億円(ふくおかフィナンシャルグループ
100%連結子会社)
- 【従業員数】 20名
- 【事業内容】 M&Aアドバイザー

エイチエル

HLサクセション株式会社

に と ひろゆき
代表取締役社長 二戸 弘幸



- 【本社所在地】 〒100-6230
東京都千代田区丸の内1-11-1
パシフィックセンチュリープレイス
丸の内30階
- 【TEL】 03-6212-7110
- 【設 立】 2019年6月
- 【事業内容】 M&Aアドバイザー



Top interview



FFG Succession

—ふくおかフィナンシャルグループのM&A専門会社—

代表取締役社長

原田 亮

HARADA RYO



地域金融機関として、 M&A・事業承継サービスを 再定義したい

FFG三行では20年ほど前からM&A・事業承継への取り組みを始めました。当時はまだ、これほど事業承継ニーズが高まっている状況ではありませんでしたが、地場企業への再生支援におけるスポンサー探索、再生の実行支援等を中心にノウハウ、実績を積みながら徐々に人員を増強してまいりました。他の地方銀行や、近年多数乱立しています独立系のM&A仲介会社よりも、取り組み開始が早かったこともあり、近年では毎年多くのお客様の事業承継のお手伝いをさせていただけるようになっておりました。

しかし、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大を経て、銀行としてお客様の資金繰りサポートが最重要課題となるなかで、FFGの事業承継、M&Aサポート件数が減少に転じました。他のM&A専門業者は件数を増加させているなかで、FFGへの相談件数が減少したことから、FFGのM&A・事業

承継への取り組みについての課題に改めて考える契機となりました。

私たちが導き出した課題は大きく二つです。一つは、日々お客様と面談をしてさえすれば、時が来たら事業承継の相談を当然に銀行にしてくれるものと漫然と考えていたことです。いくらお客様と日々銀行担当者が接していても、お客様からすると債権者である銀行にM&Aの相談をして良いものかと二の足を踏むお客様もあり、特に、コロナ禍のような有事に、その傾向が顕在化したものと思われれます。銀行としては、債権者であるからこそ、是非相談頂き、一緒に企業の将来について考えさせてほしいと思っております。ですが、その土台に乗ってもらうためのお声がけは銀行からさせて頂くことが必要だったと痛感させられました。

二つ目の課題として、銀行系のM&Aサービスが、地域企業同士のマッチングありきとなっていたことも、お客様に敬遠される一つの理由ではないかと考えています。銀行は、融資が主業務の一つですので、売主様のご相談を受け、銀行のお

取引先を紹介し、買収ローンのご提供をすることが、収益面では大きな意味を持ちます。しかしながら、銀行の取引先同士のマッチングが、売却される企業の成長や、従業員の処遇の観点から本当にベストな選択肢なのか、もっと売主側のステークホルダーの利益が最大化される選択肢を追求する必要があるのではないかと、コロナ禍に必死に事業の継続、存続に頭を悩まされた企業オーナーに、銀行系アドバイザーとして地域内マッチングありきの提案しかしてこなかったことは大きな反省点と考えました。

FFGサクセッションによる、新しいM&A・事業承継サービス

コロナ禍を受け、FFGのM&A・事業承継ビジネスを自己分析した結果として、アドバイザーを任せていただいたお客様の目線に立ち、お客様の利益最大化を目指すサービスを提供することを目的として、FFGサクセッションを設立いたしました。

FFGサクセッションでは、地方銀行型のM&A・事業承継サービスを再定義し、徹底的にお客様の目線に立ち、お客様の最良の選択を後押しすることを目指します。そのためには、お客様の事業、業界をしっかりと理解すること、そして事業・業界理解に加えて、事業の歴史、沿革を理解し、それをしっかりと受け継いで、成長させてくれる企業を全国規模で候補先を検討いたします。

引き続き各銀行の本部には事業承継・M&Aグループが残ります。地元の買い手に一番詳しい各銀行本部チームと機動的に連携し、FFGサクセッションや、外部ネットワークと組み合わせることで、九州内外どちらにも対応出来るようになり、FFGに事業承継の相談をすれば、他社よりも安心して良質なサービスが受けられる体制が出来上がったと思います。この体制整備により、近年お客様から増えていた「たくさんのM&A業者からダイレクトメールが毎日のように届くがどこに相談して良いかわからない」といった声に胸を張ってFFG

に任せてください、と言えるようになったと自負しています。これからも、地域金融機関グループとして、安心して、信頼して利用していただけるように努めてまいります。また、M&Aありき、ではないのが銀行系アドバイザーの強みの一つです。親族内での承継、従業員への承継、外部企業への承継、事業の承継にまつわる方針の策定、決定まで、決して結論ありきにならず、ワンストップ型で長期的にサポートをさせていただきます。

HLサクセッション社との包括業務提携

FFGサクセッションの設立にあわせて、国内独立系M&A助言企業であるHLサクセッションと包括業務提携を締結いたしました。HLサクセッション社は国内大手企業を中心にM&A助言を提供するフリーハーン・ローキー株式会社の子会社です。「お客様の最善の利益のために」の理念のもと、利益相反の無い代理人型アドバイザーとして幅広い業種で国内トップクラスの実績を

有しております。

FFGサクセッションは、HLサクセッションとの包括的な業務提携を実施することで、九州域外の情報網の拡充を図り、地域における多様化するM&A・事業承継ニーズに対して、最適な提案活動を行うことが可能となりました。

豊富なネットワークを活かして、お客様の課題を解決し、地域経済の発展と成長に貢献してまいります。



FFGサクセッションの創設メンバー

Top interview

HLサクセッション株式会社

代表取締役社長

二戸 弘幸

NITO HIROYUKI



豊富な実績に基づく 地域企業への 事業承継サポート

私共は、2021年まで東京証券取引所一部に上場しておりましたGCA（現フリーハン・ローキー）の子会社で、日本の中堅・中小企業の事業承継を中心としたM&Aのアドバイスをを行う企業です。当社は、M&Aの当事者である売主様と買主様の両方から手数料を頂く「仲介型」ではなく、利益相反の無いよう売主様又は買主様のいずれかのお客様とだけ契約をさせて頂く「代理人型アドバイザー」形式の数少ない企業でございます。

九州地域とのご縁は、2018年に、福岡銀行との共催で事業承継のセミナーを地域のお客様に実施させて頂いたことに始まります。その後、2019年に福岡事務所を設立して以来、九州のお客様のM&Aのお手伝いをさせて頂いております。

当社の親会社であるフリーハン・ローキー（旧GCAアドバイザーズ）は、独立系のM&Aアドバイザー

リー企業として、上場企業を中心に日本でトップクラスの実績を有しております。2021年11月に米国ニューヨーク証券取引所上場のHoulihan ローキーLokeyとの経営統合により、グローバルM&Aアドバイザー1件数でもNO.1となり、国内外の豊富なネットワークを活用したアドバイザー業務を提供させて頂いております。

今回、私共はFFGと連携させて頂くことになりましたが、これはFFGグループのスローガンである「あなたのいちばんに。」と、当社グループの「お客様の利益の最大化」を目指すビジネスモデルが合致することが大きな理由であると思えます。昨今M&A・事業承継のニーズが増大している中、本連携を通じてお客様の立場に立った真のアドバイスをさせて頂くことで、地域企業の皆様のお役に立てればと考えております。

M&Aアドバイザー としての使命

お客様の中には既に事業承継を

決められている方より、将来の事業承継に不安を抱えて検討しようと考えられている方や、いつ引退するのが良いか等、将来について色々迷っている方のほうが多いと思われまます。アドバイザーとしてその検討の道りをお客様と二人三脚で歩いていくためには、お客様の立場に寄り添い、その企業の成長戦略に対して適切なアドバイスを提供できることが非常に重要だと考えております。しかしながらアドバイザーの選定においては、その役割や能力よりも、目先の営業攻勢や手数料だけを比較して選ばれるケースも少なくありません。

また中小企業の事業承継M&Aでは、仲介会社が売り手と買い手の間に立って双方を調整していく「仲介型」の形式が多く見られますが、この「仲介型」は、価格交渉も含め様々な局面で利益相反が起こるケースが多いので注意が必要です。M&Aではアドバイザー次第で、お客様の株式価値が大きく変わったたり、条件交渉に影響が出たりするケースもあります。

自分の分身のような大切な会社

を譲渡されるお客様にとっては、できるだけ高く売りたいという価格面の条件だけでなく、その企業の歴史や文化を大切に継続していきたい、社名やブランド名を残したい、従業員の雇用を守りたい、同業社には売りたいなど、たくさん条件があると思います。私たちはそういうご希望を託す企業を幅広い候補企業の中から見つけ出し、お客様が納得されるまで相手方と交渉を続け、その結果にご満足頂くことがその務めと考えております。

地域のお客様に 新たな選択肢を提供したい

当社グループは、これまで上場企業をはじめとして幅広いお客様へアドバイザー業務を提供させて頂いており、それらを通じて数多くのお客様と成長戦略に関するディスカッションを行ってまいりました。その中には九州地域における成長戦略につながるお話もたくさんございますので、それらをFFGとの連携を通じてきちんと地域のお客様にお届けし、企業戦略の選択肢の一

つとして検討をして頂ければと思っています。FFG及びフリーハンドグループのネットワークを活用して、FFGの強みである九州地域内のお客様と、当社の得意とする東京を中心とする幅広い地域のお客様との出会いを作り出せるのが、この連携における最大のポイントだと考えております。

地域の活性化に FFGとともに貢献する

地域経済の活性化において重要な役割を果たす地方銀行の多くが、現在M&A業務の強化に取り組んでいます。お客様をよく知り、地域をよく知る地方銀行が、地域のM&A・事業承継等を通じて中堅・中小企業の基盤強化ができれば真の地域活性化につながると思っています。しかし現状は担当地域外のネットワークが弱かったり、いくつかの課題があるのも事実です。

今回FFGがM&A・事業承継ビジネスに注力されるその強化に取り組まれるということは、地方銀行業界にとっても、M&A業界にとつ

ても大きな転換点だと考えています。このような大きな取り組みの一翼を当社が担わせて頂けると思うと、非常に身の引き締まる思いです。これからも当社グループを上げてFFGとの連携を強化し、九州地域の事業承継・M&Aサポートに尽力してまいりますのでよろしく願います。



HLサクセッションのメンバー



FFG Succession

—ふくおかフィナンシャルグループのM&A専門会社—

未来へつなぐ。
事業も、想いも。

悩める企業オーナーの課題解決を目指して

現在、国内企業の約半数は後継者不在と言われています。
事業承継に悩む中小企業オーナーは少なくありません。

「自分がいない会社は、果たしてどうなるのだろうか…」

「従業員の生活や、得意先との取引関係は…」

誰しもが悩みを抱えています。

一方で、特色ある事業を展開すると同時に多くの雇用を支えている中小企業は、地域経済の健全な発展と成長のために欠かさない存在であり、その事業を円滑に承継することは重要な課題です。

当社は、特に地方で増加傾向にある中小企業の事業承継を、M&Aアドバイザーサービスを通じて力強く支援することを目的に設立されました。高品質なサービス提供により、悩める企業オーナーの課題解決、顧客利益と企業価値の最大化を目指し、地域経済の発展と成長に貢献いたします。

強み・特徴

地域密着型サービス

当社は、福岡市内にオフィスを置く地域密着型の会社です。地域の中小企業の皆様から、最も身近で信頼できる相談相手としてお選びいただくことを目指し、街の税理士や地域金融機関とも連携してサービスを提供いたします。

豊富なネットワーク

当社は、九州のみならず、提携先を通じて日本全国、ひいてはグローバルにネットワークを有しています。事業承継は会社の行く末を大きく左右する重要な出来事でありながら、失敗すると取り返しがつかないことも多々ある、非常に難しい問題です。だからこそ、納得できる意思決定ができるよう、豊富なネットワークを駆使し情報を提供いたします。

顧客の利益を最大化するアドバイザーサービス

当社は、M&Aが身近な今だからこそ、顧客の利益を最大化する代理人型アドバイザー（FA）に力を入れます。様々な情報が手軽に入手できる今、中小企業にとってM&Aはもはや珍しいものではなくなりつつあります。そのため企業オーナーは、何を指してM&Aを実行すべきか、冷静に判断することが求められます。悩めるオーナーに寄り添い、その想い、すなわち追求すべき「利益=未来」を実現するため、当社は全力でサポートいたします。

3社の連携が、M&Aを通じた
企業の課題解決を力強くサポート

FFG Succession

M&A アドバイザリー特化の専門会社。
身近かつプロフェッショナルな相談相手。



ふくおか フィナンシャルグループ

地域金融機関のフロントランナーであり、九州における圧倒的ネットワークを有する。



HLサクセッション

全国、海外に強固なネットワークを有する、実績豊富なM&Aアドバイザリーのプロフェッショナルファーム。

地域金融機関×M&Aプロフェッショナルファームのハイブリッド型サポート体制

ふくおかフィナンシャルグループ内で長年培ってきたM&Aアドバイザリー業務におけるノウハウ・専門性と、九州一円における強固なネットワーク、HLサクセッションが有する国内外の企業ネットワークが有機的に繋がることにより、地域のお客様に高品質なサービスを提供いたします。

HLサクセッションは、日本国内外でのM&Aアドバイザリー実績が豊富なフーリハン・ローキー社(旧GCA)のグループ企業であり、全国・海外大手企業とのネットワークを構築しております。

三社一体の連携体制を構築することで、地域内企業同士の事業承継、地域外企業との戦略的資本提携など、さまざまなM&Aの実行において最大のパフォーマンスを発揮し、お客様の課題解決に貢献します。

また当社は、仲介型よりも利益相反の懸念が少ない“代理人型アドバイザリー”に注力します。これにより、様々なM&Aアドバイザリーファームとの深い連携が可能であり、今後もネットワークを拡充し、充実したサポートをご提供いたします。

ホームページはこちら

<https://www.fukuoka-ma.co.jp/>



事業承継、M&A(売/買)のご相談はこちら

<https://www.fukuoka-ma.co.jp/consultation/>



お電話でのお問合せはこちら ☎092・707・2691

※各種アドバイザリーサービスのご提供に当たっては手数料が発生いたします
お手数料についてはご相談内容によって異なりますので、事前にご相談ください



「SDGs広場」オープン

～地域活性化と地元交流、SDGsの発信～

2022年7月の
記事はこちら



ふくおかフィナンシャルグループ（以下、FFG）ならびに熊本銀行は、熊本市中心部にオープンした**SDGs広場**（※）で、毎月「SDGsの日」と題しイベントを開催いたします。7月は9日に「SDGsコスメリサイクルデー」を開催いたしました。

※「SDGs広場」とは政令指定都市熊本市の中心街、城東町に22年7月、SDGsの発信を目的にオープン。熊本初の屋台村に隣接するイベントスペースに地域活性化と地元交流、SDGsの発信を目的とした全国でも例を見ない広場となっています。



FFGならびに熊本銀行は、地域の持続的な発展に向け、地域が抱える社会課題・環境課題の解決に取り組んでいます。

今回のイベントもその一環と位置付けており、銀行の本部や営業店に設置した専用



の回収BOXに廃棄される化粧品を回収し、子供たちのスライム作りやキャンドルづくり等の体験イベントの材料とする活動を通じて、地域活性化、地元交流に役立てる取り組みを行いました。



回収した化粧品は1,000個以上集まり、イベント当日は福岡を中心に化粧品のリサイクル活動を展開する学生団体「Undglück(アングルクック)」に協力いただきました。

今後もSDGs広場では、継続的に催し物を実施する予定です。昨年にFFG3行の行員がチームや個人で、SDGsに関するアイデアを出し合った「SDGsアイデア創出プロジェクト」において集まった様々なアイデアを実践する場としても活用していこうと考えております。

よろしければ、是非SDGs広場にお立ち寄りいただければと思います。



地域と共生するFFG

産学官“交わり”の
共創拠点へ

ジ ム ラ ボ
GYMLABO



国立大学法人

九州工業大学

学長 三谷 康範 氏
み たに やす のり



学長ご挨拶

2022年5月26日に、共創の場としてGYMLABO・ポルト棟を開所しました。

共創の場は、様々な人々が集まり、それぞれに色々なことを考えながら、そこから新しいモノやコトが創造されていく、共に創るという形の空間であり、本学と一緒に何かを起こしたいと考える多様な人々に来てもらいたいと考えています。

例えば、教職員だけで考えていると何も思いつかないようなことを、他の方が交わることによって予想もされなかった効果を生み出す可能性、すなわち掛け算の効果が期待されるようになります。

掛け算をすると、今まで単独では生み出されていなかった全く別の発想が出てくる可能性があります。

イノベーションには2種類あると言われており、「漸進的イノベーション」と「融合のイノベーション」という考え方があり、ここでは後者を期待しています。誰かと誰かが掛け合わさることによって、そこまでに存在しなかった突然変異的発想が出てくる、それは色々な人々が交わらないと出てきません。

学生も同様です。教職員と学生が交わっただけで、違った発想が出てくるし、企業の方々が入ってくるとまた違った感覚が鍛えられます。固定された集団に全く関係ない方が交わると今までのプレーヤーでは思いもつかない効果を生み出します。企業が悩んでいることに学生が新しいアイデアを提案する、そのようなことが起きると思います。

国立大学法人九州工業大学 学長 三谷 康範



1 創立110周年記念事業

北九州市戸畑区に本部を置く国立大学法人九州工業大学(以下、九州工業大学)は、創立110周年記念事業として、長い間親しまれてきた旧体育館を大胆にリノベーションし、産学官の共創活動の拠点となるコワーキングスペース「GYMLABO^{ジムラボ}」として再生させ、2022年5月26日(木)に開所式を開催しました。

九州工業大学のキャンパスは戸畑キャンパスを含めて福岡県内に3箇所あり(飯塚市・北九州市若松区)、飯塚キャンパスでは同日に「つながることで生まれるシナジー効果による共創の場」をテーマにポルト棟を開所しています。本稿では戸畑キャンパスのGYMLABOについて紹介します。

2 GYMLABO誕生の経緯

GYMLABOのオープンから遡ること2年前、九州工業大学では、産学官による連携

が強化されていく中、「学内で生み出された人材・技術・設備のより良い活用」、「これからの大学に求められる多様なステークホルダーを巻きこんだ拠点形成」などの取り組みにより、教育研究活動のさらなる活性化を図っていました。その効果を発揮するためには、九州工業大学が持つ人材・技術・設備を有機的に接続する必要があると考え、学内でプロジェクトチームを発足しました。

学内外の多様なワークショップ等を通して意見交換を行い、産学官共創拠点のあるべき姿について基本構想から検討を進めてきました。その一つの答えとして、九州工業大学が持つ人材・技術・設備の有機的な交わりを形成する産学官共創拠点(コワーキングスペース)を整備する必要があるという結論に至りました。

こうした経緯から戸畑キャンパスに「歴史の継承と新しい技術・交わりの形成拠点」をテーマとしたGYMLABOが誕生しました。

3 GYMLABOに インストールする5つの機能

①九州工業大学が持つ知識・技術・設備を有機的に結びつける交わりの形成拠点としての機能

②九州工業大学が長い歴史の中で培ってきた知見・技術との接点となる展示スペースを整備

③リアルとバーチャル(Web会議等の環境整備)の融合空間で、産学一体となった共創活動を實現

④九州工業大学が生み出した技術シーズを社会実装するための事業化支援

⑤九州工業大学が持つ知識・技術・設備を基にした、企業が持つ技術課題の解決策の提案

4 有機的な交わりを 促進させる設計

前述の5つの機能を実現させるために、GYMLABOは「人材・知識・技術・設備」の

戸畑キャンパス GYMLABO (旧体育館) リノベーション前後の写真



リノベーション前



リノベーション後の1階メインフロアはワーキングエリアに

有機的な交わりがスムーズに創出できる設備にする必要がありました。

その効果を最大限に発揮するため、設備も機能もオープンかつフレキシブルに利用ができる設計になっています。特に1階フロアの大部分を占めるワーキングエリアは什器もすべて可動式となっており、自由に配置ができるため、活用シーンに合わせた多様な交わりが生まれる空間になっています。

学外からの多様なステークホルダーの交わりを形成するため、企業様や個人の方がご利用しやすい空間を実現しています。

1階部には、さまざまな会議室やセミナールームを設けており、2階部には、カンファレンスルーム、企業向けレンタルオフィスを設置しています。また、個人の方でも気軽に利用できるワーキングエリアもご用意しています。

さらに、1階と2階を接続するための工夫として、談話スペースに利用可能な大きな階段「ジムラボステップス」を設置しています。このジムラボステップスを席として利用すれば、1階フロア全体をスタジアムのように活用でき、大規模イベントの実施が可能です。

今後は次世代技術の検証も行い、工学系大学である九州工業大学らしい、共創空間を演出していきます。GYMLABOの多様な活用方法により、人材・技術・設備の有機的な交わりの形成拠点として、産学官一体となったイノベーションの創出にますます貢献して参ります。



ジムラボステップス



会議室 (ワーク1-2~1-7) 利用人数: 6~8名



ワーク1-2 (6名用)



ワーク1-3 (6名用)



ワーク1-4 (6名用)



ワーク1-5 (6名用)



ワーク1-6 (8名用)



ワーク1-7 (6名用)

事前WEB予約でご利用できる会議室を6部屋ご用意しています。各部屋でデザインが異なり、フォーマルな会議や長時間・短時間のミーティングなど、場面に合わせてご利用できます。
※ワーク1-6・1-7には、ホワイトボードはございません。



セミナールーム (ワーク1-1) 利用人数: 最大30名



レイアウトを自由に組み替えられるため、スクール形式やワークショップ形式など、目的に合わせてご利用できます。



カンファレンスルーム 利用人数: 最大45名



横長の座席配置になるので講師と近い距離でセミナーを聞くことができます。



コワーキングエリア



学生たちが集まり情報交換などの交流を行っています。

テレキューブ



利用料無料、防音の個室でWEB会議などに最適です。
※WEB予約不可、1回の利用時間は最長90分

その他の設備



左. イベント時は展示スペースもご利用できます。/ 中央. 昼休みに利用できるピアノを設置しています。/ 右. 大型サイネージで学内情報の確認や企業広告も発信できます。

- 高速インターネット
- 電源完備
- ホワイトボードあり
- 大型モニター常設
- 事前WEB予約

GYMLABO 各スペース料金表

区分	コワーキングエリア	会議室 (ワーク1-2~1-7)	セミナールーム (ワーク1-1)	カンファレンスルーム	イベント コワーキングエリア (貸し切り)
会員 (学内・学外)	無 料	学内：無料 (1人1日2時間を上限とする。) 学外：500円/1時間	750円/1時間	1,000円/1時間	4,000円/1時間
非会員	500円/1日 ※本学以外の大学生・高校生・中学生は学生証提示で無料です。 ※小学生以下は保護者同伴の上来場ください。小学生以下の料金は無料です。	1,000円/1時間	1,500円/1時間	2,000円/1時間	8,000円/1時間

※セミナー室、イベントについては、主催者がGYMLABO会員(学内・学外)または非会員かによって判断します。
※料金は税込表記です。

会員募集中

KyuTechコラボ(九州工業大学 産学官連携推進会)入会で利用料金がお得に

KyuTechコラボとは

九州工業大学が、産業界との多様な連携活動を通じて地域の産学官連携の動きを一層加速させ、地域社会の課題解決やイノベーション創出に貢献するために、2020年度に創設した産学官連携推進会の愛称です。

NEW!



体育館をリノベーションしたコワーキングスペースであるGYMLABOが利用できます!

特許優先開示



出願直後の特許情報の概要をひと足早くお届けします!

インターンシップ型アルバイト



本学生を対象としたインターンシップ型アルバイト事業にお申込みいただけます!

企業募集期間
2022年7月15日(金)～9月30日(金)

入会特典

- 産学官連携関連情報配信
- 技術相談サポート

- 会員企業の広報
- 分析機器利用のご案内

- ローカル5G実証事業にかかる事務手数料の免除
- 研究会活動支援

年会費とGYMLABOアカウント数について

- 1アカウント 50,000円/年
- 5アカウント 150,000円/年
- アカウント上限なし 500,000円/年

※1アカウント1名が利用可能です。

インターンシップ型
アルバイトの
開催要項はこちら



KyuTech
入会方法はこちら



お問い合わせ | 九州工業大学 KyuTechコラボ事務局
TEL: 093-884-3485 E-MAIL: office@ccr.kyutech.ac.jp

地域とつながる FFG連携プロジェクト



私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、
観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取り組んでいます。
今回は、九州工業大学と福岡銀行による産学連携での取組みについてご紹介します。

九州工業大学と福岡銀行による産学連携での取組み

九州工業大学（以下、九工大）は1909年創設の九州有数の理系単科大学です。

前ページのGYMLABO特集でも紹介したとおり、戸畑キャンパス（工学部）と飯塚キャンパス（情報工学部）、若松キャンパス（大学院生命体工学研究科）という3つのキャンパスから構成され、学生5616名・研究者数356名（2022年5月1日時点）が在籍しています。

飯塚キャンパスにある九州工業大学大学院情報工学府では、社会から必要とされる人材を輩出するため、新時代の情報プロフェッショナルの育成を目標に掲げ、2022年4月に改組を行いました。改組後の教育カリキュラムでは、数理・データサイエンス・AI教育を充実させ、深い専門知識と俯瞰的視野を持つ技術者を育成する実践的プログラムを提供しています。

この改組においては、産業界と連携しながら各分野の社会実装の現場の実践的な知識・スキルを学ぶ「社会駆動プログラム」として13コースが設定されています。各コースでは、最新の情報技術の応用例を学ぶため、企業や研究所などから招聘した外部講師による提携講義の実施を行っています。

前述の「社会駆動プログラム」の「金融・流通コース」の1つとして、福岡銀行では「ファイナンシャルテクノロジー」という講義を2022年5



ボルト棟

月に開所したポルト棟でご提供いたしました。
（期間：2022年6月8日～7月20日、全6回）

本講義では、第1回目は地域共創部が講師となり、銀行業務全般を始め、地域金融機関に現在求められている地方創生の取組みについてご紹介いたしました。第2回目はビジネス開発部よりフィンテック分野の取組み（金融機関を取り巻く環境変化とDX化の必要性、FFGやお取引先のDX化推進事例）をご説明した後、グループワークを行い、「IT×金融」というテーマで受講生の皆さんに新しい金融商品（サービス）のアイデアを考えてい



講義の様子



グループワークで意見を交換する学生



座談会

いただきました。第3回目はみんなの銀行（九工大卒業生）から国内初のデジタルバンキングとしての挑戦についてご紹介いたしました。第5回目はグローバルソリューション部がお取引先の海外進出サポートの事例をご紹介した後、シンガポール駐在員事務所とリアルタイムで繋ぎ、現地のフィンテック事情についてお伝えいたしました。最終回の第6回目はビジネス開発部の若手行員（九工大卒業生）との座談会を行いました。

今回の取組みでは、日本の将来を担う九州工業大学院生の皆さんと接することで、私たち自身も大きな刺激を受けました。産学連携での取組などを通じて、これからも地域経済の発展に貢献してまいります。

テーマ・講師

第1回：全体概要（銀行業務）

福岡銀行 地域共創部 副部長 三浦一博

第2回：ビジネス開発部の業務紹介

福岡銀行 ビジネス開発部 部長 浅野俊幸

福岡銀行 ビジネス開発部 デジタル人財育成グループ
主任調査役 里潤也

第3回：新規銀行の取組み

みんなの銀行 デジタルサービスマネジメントグループ 前嶋寿史

Diffeasy エンジニアリングマネージャー 鶴田拓郎

※前嶋・鶴田は九工大卒業生

第4回：グループワーク

第5回：グローバルフィナンシャル業務紹介

福岡銀行 グローバルソリューション部 副部長 三溝尋紀

第6回：銀行業務担当者との座談会（九工大卒業生対応）

福岡銀行 ビジネス開発部 オープンイノベーション推進グループ
副調査役 牛嶋優斗

福岡銀行 ビジネス開発部 オープンイノベーション推進グループ
阿部桜和子

※牛嶋・阿部は九工大卒業生



福岡銀行 地域共創部
（左から）澤水（九工大へ出向中）・麻生
【お問い合わせ】TEL (092) 723-2254

FFGは地域が抱える課題解決や地域経済の活性化に取り組んでいます

FFG地方創生の
取組み事例はこちら

ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア

bank baton



地方創生に関するお悩みをご相談ください

- 観光振興
- まちづくり
- 産業振興
- エネルギー
- 教育文化芸術
- ヘルスケア

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 地方創生推進グループ
【お問い合わせ】TEL (092) 723-2254



New York Representative Office

ニューヨーク駐在員報告

激動するニューヨークの不動産市況



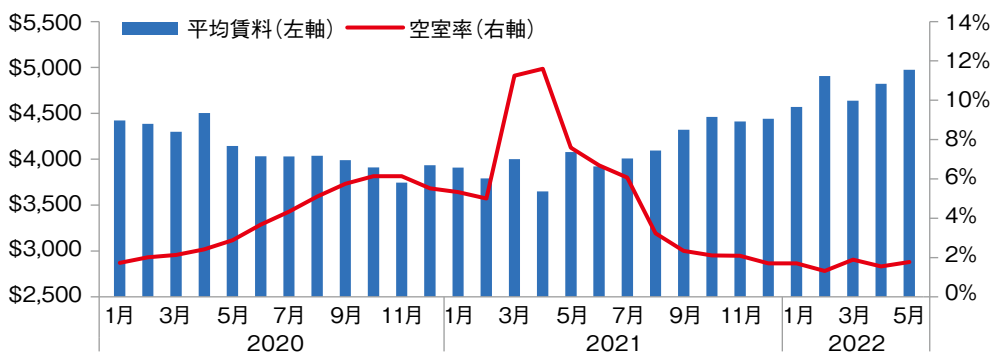
はじめに

ニューヨークは、金融・ビジネス・アート・グルメ・エンターテインメントなど、様々な分野で世界をけん引する言わずと知れた世界有数の大都市です。パンデミック当初、世界最大の感染都市となったニューヨークですが、世界に先駆けたワクチン接種の進展や大規模な財政支援等により、いち早くコロナ禍からの経済正常化を図ってきました。今回は、それを象徴するニューヨークの不動産市場をご紹介します。

コロナ禍から急速に回復する不動産市場

2020年3月のロックダウン以降、より良い環境を求め、ニューヨーク市内から郊外へ移り住む人が増えたことなどから、一時、ニューヨーク市マンハッタン

■ 図1: ニューヨーク市マンハッタンの賃貸住宅 平均賃料・空室率推移



(出典:「Elliman Report」をもとに当行作成)

における賃貸住宅の空室率は2%台から12%近くまで悪化し、それに連動する形で賃料水準も大幅に下落しました。その後、

■ 図2: 福岡銀行ニューヨーク駐在員事務所 (ロックフェラーセンター) 周辺の人流



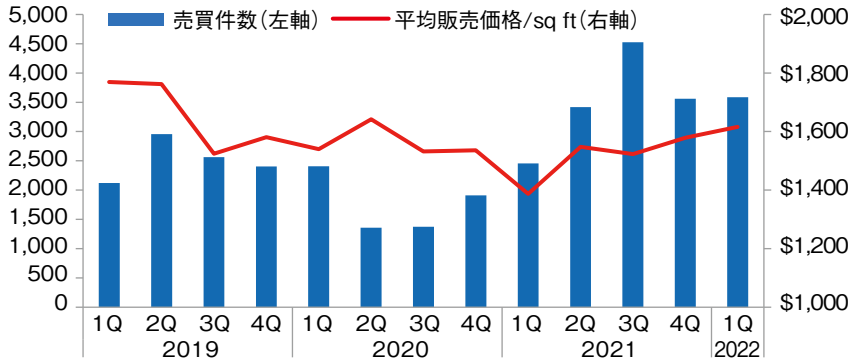
2021年11月

2022年6月

ワクチンの普及による感染者の減少や段階的な経済再開、入国制限緩和等によりニューヨーク市内に人流が戻り、一気に需要が高まったことで状況は一転、足元では、オーナー有利の極端な貸し手市場となっています。同一物件に同時に10人の申し込みが入ることも稀ではなく、即日契約や従来より厳しい入居条件が課せられるケースも増えています。



■ 図3: ニューヨーク市マンハッタンの不動産売買 契約数・平均売買価格推移



(出典:「Elliman Report」をもとに当行作成)

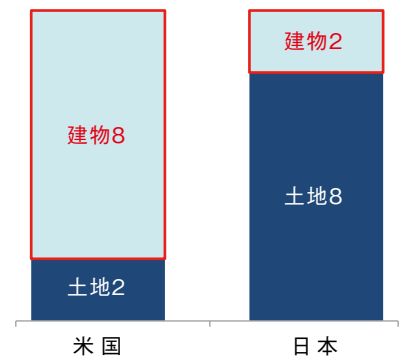
不動産売買市場のトレンドも同様で、ニューヨークの中心地マンハッタンにおける売買契約件数はコロナ前を大幅に上回る水準まで回復しています。足元では、政策金利の引上げを受けたローン金利の上昇により買い控えの

なぜ米国不動産は強いのか

動きも見られますが、引き続き富裕層によるキャッシュ買いや安定的なドル資産を目当てとした海外からの需要も強く、不動産売買市場は、今後も底堅く推移するものと見込まれています。

米国の不動産市場の特徴としてセカンダリーマーケットの強さがあげられます。日本で取引される不動産の約6割は新築物件ですが、対照的に、米国では中古物件が8割以上を占めています。その要因として、米国の事業用不動産は、オーナーチェンジ毎に物件の税務上の減価償却年数(法定耐用年数)がリセットされるため、構造や築年数によらず資産価値が下がりにくいといった点や、建物・土地の評価割合が8:2(日本は、建物:土地=2:8)となるケースが一般的であ

■ 図4: 日米の不動産価値評価の違い



ることから、国内外からの節税目的での投資需要もある点などがあげられます。このように、一見、目新しい新築マンションが建ち並びイメージのあるニューヨークですが、築100年以上の物件も多く存在し、築年数の古い物件でも改装や修繕を重ねることで、資産価値が上昇するケースも少なくありません。

最後に

今回は、ニューヨークの不動産市場にフォーカスし、米国経済の

ダイナミズムの一部をご紹介します。米国では、不動産に限らず、企業におけるサービス価格への転嫁や賃金のベースアップなど、需要と供給の市場メカニズムが、企業活動や消費活動に適切に反映されていると感じます。市場競争が厳しく、新陳代謝の激しい米国ですが、だからこそ新たな産業や文化が生まれ、そこに世界中からビジネスチャンスを見出す企業が集結するのだと思います。

福岡銀行ニューヨーク駐在員事務所では、お客さまの米国進出検討にあたっての、市場調査、現地進出、ビジネスマッチング等、海外ビジネスに関する各種ご相談を承っております。お気軽に最寄りの本支店までお問い合わせ下さい。

2022年7月11日現在
 (ニューヨーク駐在員事務所
 大里 誠)

Topics of the month

九州初の
取り組み!

FFGが取り組むSDGs

リサイクル啓発オリジナルラッピング
自動販売機を設置しました!

～サステナブル素材の商品導入～



ふくおかフィナンシャルグループ（以下、FFG）では、サステナビリティ方針を策定し、優先すべき重点項目の一つ「環境への配慮」の取り組みを設定しています。

今回「環境への配慮」における新たな取り組みとしてコカ・コーラボトラーズジャパン社と

連携し、リサイクル啓発につながるオリジナルラッピング自動販売機をFFG本社内のカフェテリアに設置するとともに、自動販売機内のペットボトル商品には、サステナブル素材を使用するものを多く導入いたしました。

今回導入した、環境負荷に配慮した商品選定かつオリジナルラッピングを施したコカ・コーラボトラーズジャパン社製自動販売機の設置は九州初の取り組みです。

2022年5月に設置して以降、ペットボトルリサイクルルールを記したオリジナルラッピングの効果もあり、資源再利用への意識の高まりに繋がっています。

今後もFFGは、地域金融グループとしての役割や特性を活かして、地域の社会課題や環境問題の解決に資する取り組みを推進し、持続可能な地域社会の実現を目指していくとともに、SDGs達成に貢献してまいります。



FFGビジネス
コンサルティングの
釣道 ちょつと
つりみち
[有明海の伝説・ヒラ編]
Vol.12



①「大魚神社」前ではしゃぐ筆者。満潮時には海中鳥居が海に沈み、インスタスポットとしても有名 ②③④⑤ヒラは群れにあたれば大漁なんです。FFGのメンバーでチャレンジ!

「月の引力が見える町」国道207号線沿線の有明海に面した風光明媚な地域、太良。

有明海は干満の差が6mほどある特異な海域として全国的に有名です。その沿岸を走る国道には、車で5分程度の間隔に違う町が経営する道の駅が二つもあります。

長崎に行く機会が増えている中、JRの車窓を眺めているとふと途中下車したくなりました。

駅から降り立つと、干潟に真っ赤な鳥居が並んでいる珍妙な光景が目に残りました。この地には、大きな魚「ナミウオ」が悪代官を更生させた伝説があり、それを祀るために建立された「大魚神社」があります。また干潟に向い鳥居が続き、その横には潮が満ちると海に沈む波止「海中道路」が沖側に続いています。

「大魚つて、そんなのがここにいるかねえww」

少し南の、沖合いに突き出た半島まで足を延ばすと、日が落ちた暗い水面に灯りが当たりたくさんの小魚等が水面に群れ、それを追う魚でざわついています。筆者は竿を出さずにいられませんでした。

細長いワームと呼ばれる疑似餌を漂わせると、微かな、しかし鋭い魚信を感じ、瞬間的に針をかけた。水面で暴れる時にはジャンプして激しく抵抗するその魚は、暗い中で魚体がキラキラ輝き目はルビー色に妖しく光っています。国内でもここ有明海か瀬戸内海などにしか生息しない魚、「ヒラ」です。

「確かに大きくて目も紅く光るニシンの化け物みたいな神秘的な魚だけど、ナミウオってこれじゃないよな」

50cmはあるその魚体と独特な体表の匂いに怖気つきながらも、筆者はそのファイトを堪能しました。穏やかな海面には満月が揺らぎながら有明海を照らしています。終電はもはやありませんでした(泣)。



釣れたヒラはFFGのメンバーで調理し、美味しくいただきました

九州の星
Star of Kyushu

| 75 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです



重い重量を挙げて気持ちも上げる。
目指すはオリンピックで金メダル！

全国高校ウエイトリフティング競技選抜大会 男女W日本一



ウエイトリフティングで男女W日本一

2022年3月に開催された「全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会」で、福岡県立八幡中央高等学校ウエイトリフティング部 山本彩弥さんと安藤周粋さんが日本一に輝いた。

山本さんは高校から競技を始めた異色の選手。中学は音楽部に所属し、今もピアノレッスンに通う文化系女子だ。

「ウエイトリフティング部は、知り合いの先輩に誘われて見学したら雰囲気良かったので入部しました。親は吹奏楽部に入ると思っていたらしく、入部を告げるとビックリしていました(笑)」

入部直後は20キロも挙げられなかったが守監督の指導の下、高校3年間で、

その才能をメキメキと伸ばしていった。

一方、安藤さんは中学校時代、陸上の走り幅跳びの選手だった。中学2年時、福岡県が運動能力の高い子どもの適正競技を見出す「タレント発掘事業」で重量挙げと出合った。未知の世界であったが「華奢な人が重いバーベルを挙げている姿」に魅了され、のめり込んでいった。

3年生の山本さんは、インターハイを最後に大学の受験勉強に集中。2年生の安藤さんは全国高校選抜に続き、インターハイ、国体の高校3冠制覇を狙う。二人の将来の夢は「2028年のロサンゼルスオリンピックで金メダル!」。目を輝かせて語る二人の未来は明るい。

山本 彩弥

YAMAMOTO AYA

Age 17 高校3年生

安藤 周粋

ANDO SHUSUI

Age 17 高校2年生

福岡県立八幡中央高等学校
ウエイトリフティング部



▲全国高校選抜の賞状とメダルを手に、左から山本さん、安藤さん



▲八幡中央高校をウエイトリフティングの強豪校に育てた守監督と一緒に

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、篠崎 竜大様から「壱岐島でたちまちやっています!」と題し、寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



ながさき経済web画面

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。





壱岐島でたちまちやっています！

寄稿 たちまち 篠崎 竜大



たちまちメンバー。左から大川 漁志氏・香菜氏、篠崎 竜大氏・千恵美氏、平山 みずき氏・健人氏

人と人の交差点のような場をつくる

芦辺浦をふらっと人がたち寄るまちに、人と人の交差点のような場になりたい。色々な人が混ざり合い、外からの人を迎えるまちにしたい。そんな想いで、2018年から「たちまち」は動き始めました。

2016年このまちに「みなとやゲストハウス」ができて、国内外からいろんな人が集うようになりました。しかし宿はできても、食べるどころも立ち寄るところもない。さらに



Profile



TACHIMACHI.IEMACHI.IKI

たちまちメンバー

LIGHTHOUSE設計

しの ぎき たつ ひろ ち え み
篠崎 竜大・千恵美

みなとやゲストハウス

おお かわ りょう じ か な
大川 漁志・香菜

PIZZERIA Potto

ひら やま けん と
平山 健人・みずき

長崎県の壱岐島、その東の玄関口、芦辺港
近くの小さなまち芦辺浦。

このまちで生まれ育った人間と外からやってきた人間が、日々を楽しむために活動中。

www.tachimachi.net

はゲストから移住相談も。そんな時に、大川夫妻から「このまちにもっと人が寄るように食堂をつくりたい」と設計の相談がありました。それならばいっそ、まち全体のことを考え、子どもも大人も旅人も集まることのできる拠点をつくり、そこから芦辺浦の情報発信と住まいの準備ができる活動してみようじゃないかと、チームを結成しました。それが「たちまち」です。壱岐では「とりあえず」という意味をもつ「たちまち」は、メンバーでできることを少しずつ、まずはやってみようという活動の理念そのものです。



混ざり合う場としての 拠点づくり

わたしたちが最初に行った活動は、子どもたちも安心して立ち寄れる拠点づくりでした。そこは、たちまちの活動拠点であり、食堂であり、まちの子どもたちが寄るフリースペースでもあります。このフリースペースは近所の人たちにも協力してもらい、2019年から月曜日と金曜日の15時半～17時まで無料開放しています。芦辺浦の子どもたちが下校後にやってきて、自分たちで学習をしたり、絵を描いたり、本を読んだりと思い思いに過ごして帰ってきます。特にルールはありません。プログラムもありません。学校でも学童でもない、まちの広場のようないろいろな居場所。併設された食堂にやってきた大人も寄って話したり、混ざって遊んだりすることも。子どもたちの姿がまちの人たちにとっても、ほっとできる小さな幸せだと感じています。子どもたちが明る



フリースペース イエマチの日常



改修したたちまち イエマチ

い未来を想像できるように、そしてこのまちで過ごした日を大人になつてふと思いつく瞬間があることを想いながら一緒に過ごしています。

空き家相談室イエマチ

この活動を行う中で、単純なことですがまちには人が必要であること、を改めて感じています。ここに住んでいる人に、島外の多様な価値観を持つている人が混ざり合うことで、より大きな力になっていくこと(わたしたちの生活も楽しくなっていくこと)を知りました。この場所です。

生まれ育ち、今は島外にいる人も、旅の途中でこの島にふらっと寄った人も信頼できる人がここにいることが、この島で生きていくきっかけになることを実感しています。一旦住んでみて人と混ざり合うことが、この島に住む一歩になる。そのためには、住まいの準備が必要です。

2019年2月に吉崎市とたちまちは「芦辺浦地区における移住促

進ならびに空き家活用推進に関する連携協定」を締結し、2019年7月には空き家相談室「イエマチ」がたちまちの拠点に開設されました。空き家をどうしたらいいか、誰に相談したらいいのかわからない。そんな時にぎくばらんに話ができる場所をまちの中においてみたらどうだろう、ということ地域おこし協力隊の方が土曜日にたちまちの拠点で業務を行っています。少しずつ吉岐の人にも認知されるようになり、空き家バンクへの登録や空き家の利活用が進んでいます。

そして2020年には芦辺浦の空き家三軒を改修して賃貸物件にするプロジェクトが始まりました。この空き家でも地域の人や子どもたち、新たな移住者も交えて一緒に片付けをしました。一緒に作業をすることで、この家に愛着がわいてくる。その気持ちは、まちを好きになることにつながるのではないかと考えています。今この三軒の空き家には三組の新しい家族が生活し、このまちの



空き家片付けワークショップ



壱岐市とたちまちの協定式



改修された空き家の土間で

新しい日常の風景をつくっています。

自発的な活動を

活動を始めて4年、拠点をつくるための空き家内部の解体ワークショップ「こわして！ぬって！」に始まり、100人を超える方に集まって頂いた「よつて！かたつて！」では、まちに住む先輩から歴史や物語、大切にしてきたことの話を寄って語る場をつくりました。この時の時間と経験が、これまでのたちまちとしての活動の精神的な支えになっています。他にも写真展や本の展覧会、高校生との空き家片付け、クリスマス会や漂着ゴミでの楽器づくりなど、子どもたちや地域の人を巻き込みながら、様々なワークショップを行ってきました。

大切なことは行政や大きな資本に頼るのではなく、手づくりで小さなプロジェクトを積みあげ、その集積として経済優先ではない、「自分たちのまちは自分たちでつくる」と



いう意識が表れてくることです。一つ一つは小さくても、島の色々なところで、島の外部からではなく、内部から自発的に活動が起こってくることで、ゆつくりと島に根を張って大きな変化をもたらすことも可能になるのではないのでしょうか。

こどもの島旅プロジェクト

この4年間、子どもたちのフリースペースの開放を継続してきて、また自分たち自身の子育てを通して、子どもの行動が色々なルールによって制限されていることに違和感を抱かずにはいられません。今の社会のリスク回避への偏重は自然との距離をとることと同義のような気がします。人工物に囲まれた一見低リスクな環境が推進されています。自然と生活の分断は今や都市と地方に関わらず、また子どもにも大人にも言えることではないかと思えます。現代の画一的でとてもフラットな教育がこの島にも当たり前前のよ

うにあてはめられています。もっとその場所に合った多様な教育のかたちがあっても良いのではないかと考えています。

そして今動き始めたことが、日常に自然とのつながりをつくる「こどもの島旅プロジェクト」です。わたしたちは一人の親としても子どもたちにも多様な人々や風景、経験に出会って



こわして!ぬって!ワークショップ



空き家解体ワークショップ 大人も子どもも夢中に



みんなで漆喰塗り

ほしいと思っています。この計画は特別な体験や教育を行う必要はなく、地域のおじいちゃん、おばあちゃんが見守る中、地元の子どもたちがまちや海で普通に遊ぶようなことと同じことのように考えています。このまちは、外の人が少しずつ移り住むことで、人を迎える下地ができてきていると感じます。そんなまちと、吉岐の

豊かな自然とのつながりを感じるこ
とができる「こどもの島旅」。
島の子にとっても、島外の子にとっても、混ざり合うことで多様な価値観に出会うことになるでしょう。遠く離れた島に(島の子から見れば都市に)友達がいるという感覚ができる、そうしてその旅はきつと記憶に残るものとなり、いつかまた



こどもの島旅「親子で無人島へピクニック」



こどもの島旅「近所の清石浜へ散歩」

会いたいという新たな旅の動機になります。

今年に入り、芦辺浦に新しいワーケーション施設もオープンしました。

今まで単身者のフリーランサーのものであったワーケーションから、このプロジェクトによって家族を巻き込む新たなワーケーションへと進化が

はかれると考えています。また、3年

後には子どもを主体とし、継続した預かりができる「島のようちえん」の

運営を目指しています。

活動のきっかけは、まちごと価値が上がること。今その価値とは何かと考えた時に思い浮かぶものは「日

常」という言葉です。忙しい(と思っ

ている)現代の時間の中でどうやって豊かに感じる日常をおくれるか。

自然のリズムを、隣人の気配を感じながら生活できる何気ない日常が大きな価値ではないでしょうか。

わたしたちは決して壱岐のために社会を変えよう、とは思っていません

ん。生活を楽しくするため、よりよい時間をおくれるために動いています。

壱岐全体だと見えないこと、考えられないことも自分の隣3軒のことなら見えてくる、考えることが出来るのではないか、そこで発生する小さな物語が、新しい動きを、ひいてはこれからの社会をつくっていくのでは

と思います。

様々な人が混ざり合うことは、

摩擦や衝突もあります。でも、だからこそ多様なコミュニティが形成される、そして人と人のゆるやかなつながりができると思います。そうして外の人間を迎えるまちへとなっていくこと。用もないのに顔を出したくなる場が自然に増えて、思いがけず面白いことがおきるまちへ。「より速く、より遠くへ、より合理的に」ではなく「ゆつくりと、隣3軒を、寄り道を楽しみながら」この活動を継続していきたいと思えます。

たちまちね。



十八
親和

Juhachi
Shinwa
Art Gallery

アート
ギャラリー



当館で所蔵する作品を紹介します



▲有田 染付山水文蓋付鉢 作者不詳
H29×φ37cm 高台:H2.5×φ18cm 口径:φ35cm 蓋:H8×φ37cm

今回ご紹介する「染付山水文蓋付鉢」は、輸出用に有田で作られたものです。どっしりとした大きな器全体に、染付で中国風の建物や、数種の雲、山、松などが繰り返し描かれています。そこに地面から空へと続く竜巻のような文様が縦のラインとして入り、不穏な気配を感じさせます。その一方で、太く大らかな雲などの描写はやわらかく、のどかな雰囲気も漂います。

遠い異国へ渡り人気を博した肥前磁器の生産を支えたのは、無名の職人たちでした。中国絵画を元にしたとされる本作もそうした作品のひとつです。その仕事を象徴するものとして陶磁器展示室2で公開しているほか、展示室外のホワイエ壁面には意匠の一部を模写した壁紙を採用しています。ご来場の際には併せてお楽しみください。

(十八親和アートギャラリー学芸員

藤松 綾子)



十八親和
アートギャラリー

開館時間：10:00～16:00(入館は15:30まで)

休館日：日・月・祝日、年末年始(12/31～1/3)

※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F

鑑賞無料

TEL0956-23-4856

西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分

JR佐世保駅から徒歩約20分

